

上三川町地域公共交通計画 (骨子案)

令和7年8月

上三川町

目次

1	はじめに.....	1
1-1	計画策定の背景と目的	1
1-2	計画の位置付け	1
1-3	計画区域	1
1-4	計画期間	1
1-5	上位・関連計画	2
	(1) 上三川町第7次総合計画.....	2
	(2) 上三川町都市計画マスタープラン	4
2	上三川町の公共交通の現状.....	5
2-1	町の概況	5
2-2	人口	6
	(1) 人口の推移.....	6
	(2) 人口の分布.....	7
	(3) 通勤・通学流動（15歳以上就業者及び15歳未満通学者を含む通学者）	8
	(4) 自動車・バイク保有状況.....	9
2-3	施設	10
	(1) 公共施設	10
	(2) 医療機関	10
	(3) 観光施設	11
2-4	交通の現状.....	12
	(1) 交通手段別の利用者の割合	12
	(2) 路線バスの現況	13
	(3) 鉄道の現況.....	15
	(4) タクシーの現況	16
	(5) デマンド交通の現況	16
2-5	町内の公共交通空白地帯	21
3	地域公共交通の利用実態	23
3-1	町民アンケート	23
	(1) 回答者の属性.....	23
	(2) 鉄道.....	25
	(3) バス	26
	(4) デマンド交通.....	27

(5) 満足度.....	28
(6) よりよい公共交通にするために必要なもの.....	30
免許証返納者数.....	31
3-2. 事業者からの意見.....	32
(1) 医療機関.....	32
(2) 福祉施設.....	32
(3) 工場等.....	32
4 地域公共交通の課題.....	33
4-1. 町民生活を支える効率的かつ持続可能な交通手段の確保.....	33
4-2. 高齢者ニーズを踏まえた地域公共交通の見直し.....	33
4-3. 地域公共交通に対する関心と地域を挙げた取組の確保.....	33
4-4. 公共交通サービスのデジタル化.....	33
5 上三川町地域公共交通計画の基本方針.....	34
5-1. 基本方針.....	34
5-2. 公共交通の区分.....	34
6 計画目標と評価指標.....	35
6-1. 計画目標.....	35
6-2. 評価指標.....	35
7 目標達成に向けた施策.....	37
7-1. 計画事業.....	37
8 計画の推進.....	40
8-1. 計画の推進体制.....	40
8-2. 計画の達成状況の評価.....	40
9 参考資料.....	41
9-1. 町民アンケート.....	41

1 はじめに

1-1. 計画策定の背景と目的

近年、全国的に人口減少や少子高齢化が急速に進展し、それに伴う労働力不足、地域経済の縮小が進んでいます。特に、運転免許証を自主返納する高齢者の増加により、交通弱者の移動手段確保は喫緊の課題となっています。加えて、交通事業者においても運転手不足が深刻化しており、安定的な公共交通網の維持が難しくなりつつあります。

こうした状況の中で、住民の移動手段を確保・充実し、豊かな生活や地域活力を維持・向上させるためには、鉄道、路線バス、デマンド交通など地域の多様な輸送資源を活用し、地域の移動ニーズにきめ細かく対応した持続可能な公共交通体系の構築が必要です。さらに、まちづくりと一体となった面的な公共交通ネットワークの再構築も重要な課題です。

国においては、平成 25 年 12 月に「交通政策基本法」を制定し、住民の移動手段の確保に関して国・地方公共団体・交通事業者等の役割を明確化しました。平成 26 年 11 月には「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を改正し、地方公共団体が中心となってまちづくりと連携し、地域公共交通網を形成することを推進しました。さらに令和 2 年 11 月の改正では、「地域公共交通計画」の策定が努力義務化され、地域の多様な輸送資源を活用し、持続可能な運送サービスの確保を図る取り組みが強化されています。

本町では、平成 24 年 2 月に策定した「上三川町地域公共交通整備計画」に基づき、交通空白地域の住民の移動手段を確保するため、デマンド交通「かみたん号」を導入しました。また、令和 3 年には計画の中間評価と見直しを経て、「上三川町地域公共交通計画」として改訂しました。令和 4 年 4 月には、下野市・壬生町との広域連携「ゆうがおバス」の運行を開始しております。

本計画は、令和 7 年度に計画期間の満了を迎えることから、これまでの取り組みや社会情勢の変化を踏まえ、住民の移動を支える持続可能な地域公共交通の実現を目的として改定するものです。

1-2. 計画の位置付け

本計画は、総合計画を上位計画とし、都市計画マスタープランなどの関連計画と連携・整合を図ります。

1-3. 計画区域

本計画の区域は、上三川町全域を対象とします。

1-4. 計画期間

本計画の期間は、令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間とし、令和 12 年度に最終目標を設定します。

なお、上位計画や関係計画と整合を図るため、必要に応じて計画の見直しを行います。

1-5. 上位・関連計画

(1) 上三川町第7次総合計画

上三川町第7次総合計画(後期基本計画)では、「基本目標4“交通・交流・連携”のまちづくり」の一環として、「機能的な道路網の形成や便利な公共交通機関の充実」と位置づけており、誰もが容易に移動できる環境を整える必要性を明記しています。

また、基本計画では、単位施策として公共交通の充実を掲げ、「路線バスの維持・確保」や「デマンド交通の充実」により高齢社会の進展を見据えた、自家用車での移動が困難な方たちの足として利用しやすい環境づくりを位置づけています。

1. 上三川町の将来像

これまでのまちづくりを継承していく上で大切な考え方となる基本理念や、これからの10年を展望した本町が目指すべき将来像を以下の通り設定します。

1 基本理念



2 町の将来像

共に創る 次代に輝く 安心・活力のまち 上三川

“共に創る”とは

本町の活発なまちづくり活動の主体として活躍する、様々なコミュニティやボランティア団体等との交流・連携を深め、継続的な取り組みを相互に支えながら実施していくことで、行政と町民が共に考え共に行動する、協働と参画のまちづくり環境が形成されます。

“次代に輝く”とは

本町の持続的な成長を図るための布石として、これまでの豊かさを支えてきた自然や産業、住環境など、地域の宝ともいえる様々な資源を磨き上げることで、まちづくりの効果が次世代において発現し、いつまでも住み続けることのできる魅力にあふれた環境が形成されます。

“安心・活力のまち”とは

定住の場・就業の場としての本町の性格を基本としつつ、人口減少の抑制や町民の暮らしに対する満足度の向上が図られるよう、高齢化への対応や子育ての支援、災害対策、しごとの場の確保などに取り組むことで、誰もが安心して暮らすことのできる活力に満ちた環境が形成されます。

2. 基本目標

‘安心’や‘活力’の魅力に映える町の将来像の実現に向けて、第7次総合計画のまちづくりの方向性を示す8つの基本目標を以下のとおり設定します。

- ① “安心安全・定住”のまちづくり
- ② “子ども・健康・福祉”のまちづくり
- ③ “産業・しごと・活力”のまちづくり
- ④ “交通・交流・連携”のまちづくり
- ⑤ “人・文化・スポーツ”のまちづくり
- ⑥ “自然・環境”のまちづくり
- ⑦ “コミュニティ・地域力”のまちづくり
- ⑧ “協働・健全財政”のまちづくり

出典「上三川町第7次総合計画」（平成28年3月）

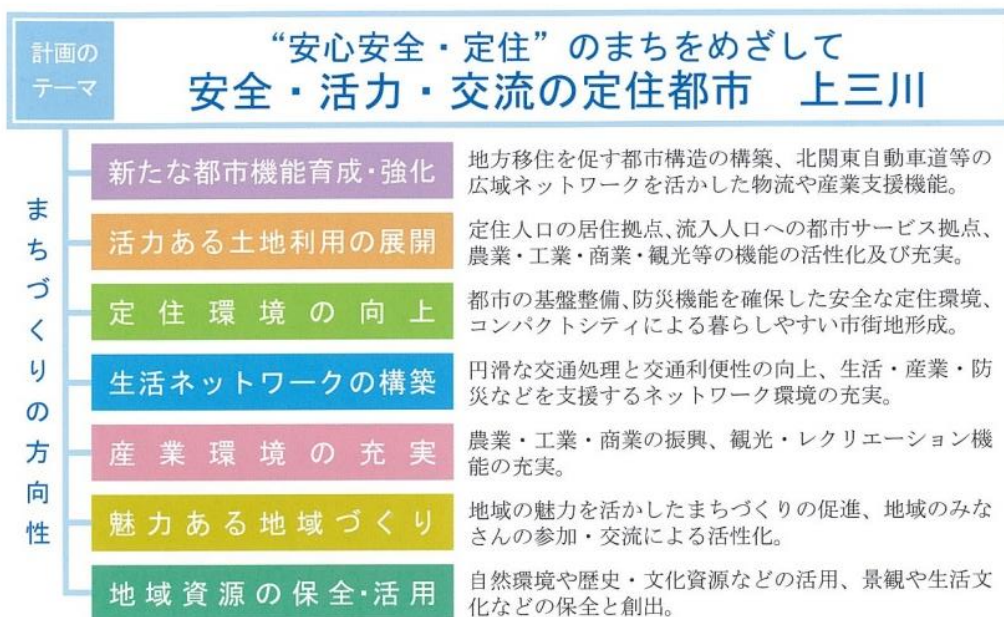
（２）上三川町都市計画マスタープラン

上三川町都市計画マスタープランでは、“安心安全・定住”のまちをめざして「安全・活力・交流」の定住都市「上三川」の計画テーマのもと、『交通体系の骨格づくり』をサブテーマに掲げ、①広域的ネットワークの形成、②拠点地区・地域のネットワークの形成、③誰もが移動しやすい公共交通環境の向上を図ることを基本的な展開の方向性として位置づけています。

まちづくりの基本方針

定住環境や活力・魅力の向上を目標としたまちづくりを進めます。

計画のテーマとして目指すべき都市像を設定し、その実現に向けたまちづくりの方向性と、都市構造を構成する“土地利用”“交通体系”“水と緑”の骨格を形成するための方針を示します。



土地利用の骨格づくり

市街化区域においては定住や産業等の都市機能の充実を図ります。

また、富士山地区、願成寺地区、西浦・富士見台地区などの市街地整備、石田地区南部における“新産業拠点”などの新たな拠点づくりや、新4号国道沿道などにおける適正な土地利用の誘導などを進めます。

自然、田園環境、景観の保全と魅力づくりにも配慮し、バランスのとれた土地利用を進めます。

交通体系の骨格づくり

北関東自動車道、新4号国道、J R宇都宮線などによる広域のネットワーク形成と、生活や産業などの軸となる交通網の充実、構想路線の整備などを進めます。

また、誰もが移動しやすい環境づくりのため、公共交通の充実を図ります。

水と緑の骨格づくり

鬼怒川等の河川環境、公園、歴史資源などを活かした魅力づくりを図ります。

こうした資源をめぐる緑のネットワークや中心市街地の回遊ルートづくりについても取組み、定住の場としての魅力の向上を図ります。

2 上三川町の公共交通の現状

2-1. 町の概況

本町は、栃木県南東部で鬼怒川の右岸、首都東京から約90kmの距離に位置し、東西約8km、南北約11km、総面積54.39km²のほぼ平坦な地形により構成され、東は真岡市、西と南は下野市、北は県都宇都宮市の3市と接しています。

町の中央を南北に貫く新4号国道は、首都圏から東北までを結ぶ主要道路として昭和50年に一部完成し、平成25年に栃木県内が全線6車線化されました。また、町北部には、北関東3県を東西に結び、東北自動車道などを経由し首都圏を始め全国にアクセスが可能な北関東自動車道が横断し、新4号国道と交差する宇都宮上三川ICが最寄りのICとなっています。

本町は、町内に鉄道駅を有していませんが、西部でJR東北本線（宇都宮線）石橋駅と接しており、通勤・通学客を始め、多くの町民の交通手段として利用されています。



図1 上三川町の概況図

2-2. 人口

(1) 人口の推移

人口は平成22(2010)年の31,621人をピークに減少傾向にあり、令和2(2020)年度は30,806人となっております。特に生産年齢人口、年少人口の減少が著しい一方、老年人口は増加を続け、10年後の令和17(2035)年には高齢化率が30%を超える見込みです。

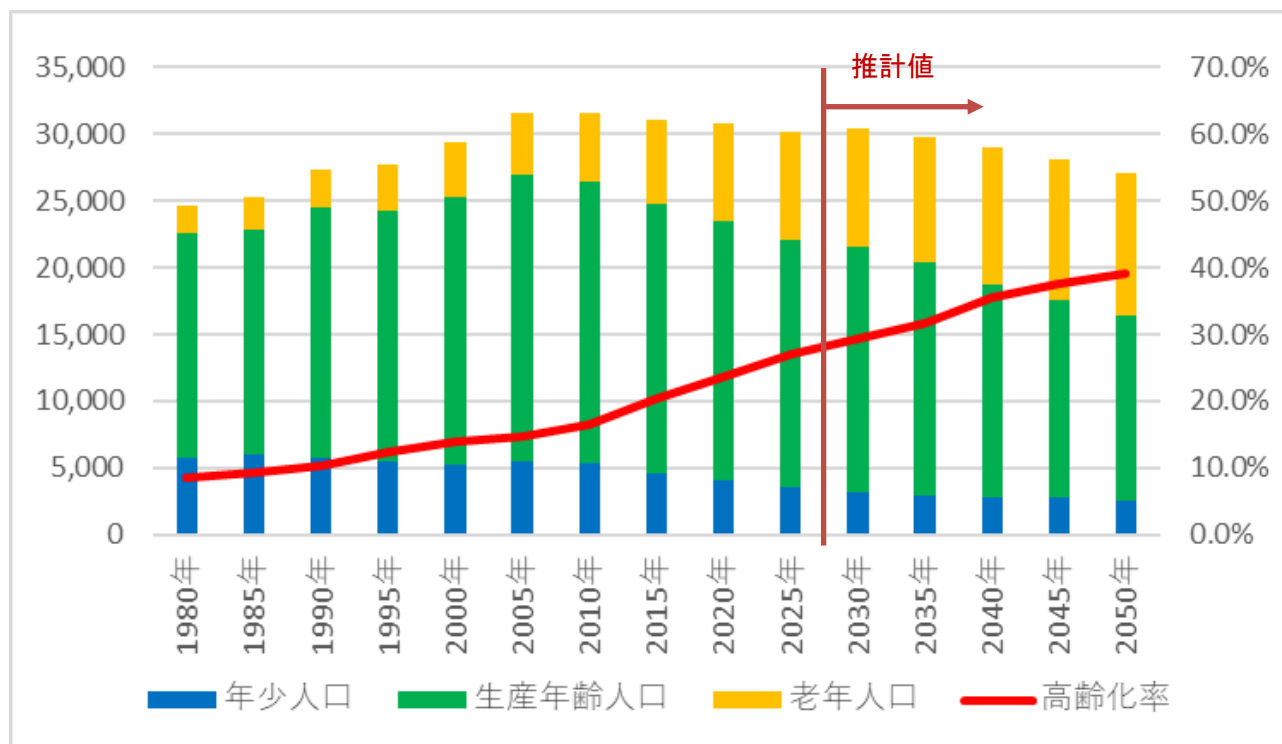


図2-1 年齢構成別の人口推移と推計

出典「人口ビジョン」（上三川町）・「令和2年国勢調査結果」（総務省統計局）を元に作成

(2) 人口の分布

町中心部の役場周辺、西部の石橋駅周辺、ゆうきが丘団地、北部の本郷団地に人口が集中しています。



図 2 - 2 人口分布

出典「令和 2 年国勢調査結果」(総務省統計局) を元に作成

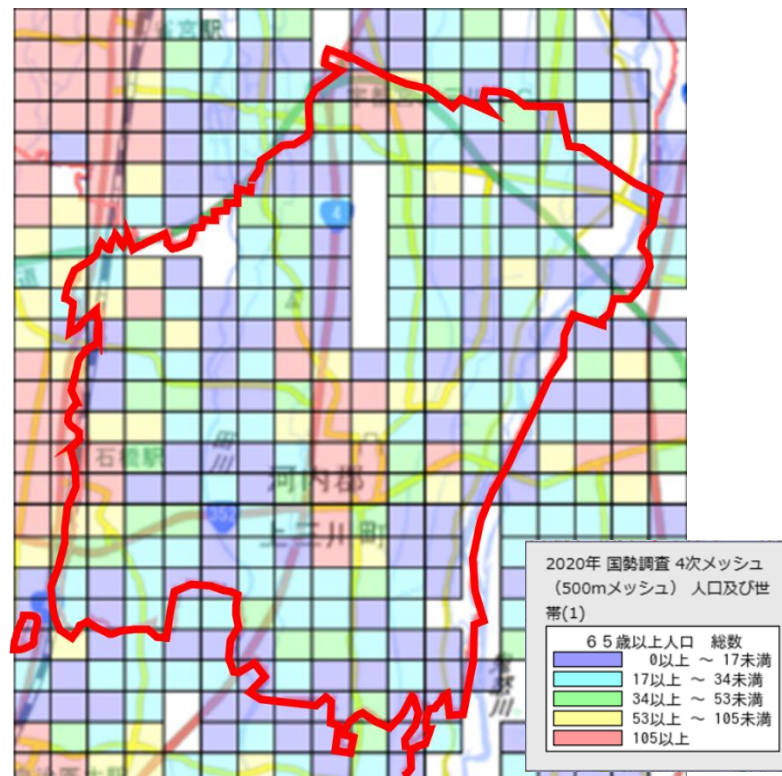


図 2 - 3 65歳以上人口分布

出典「令和 2 年国勢調査結果」(総務省統計局) を元に作成

（３）通勤・通学流動（15 歳以上就業者及び 15 歳未満通学者を含む通学者）

【流入人口・流出人口】

	流入人口			流出人口		
	総数	就業者数	通学者数	総数	就業者数	通学者数
総数	9,900	9,598	302	10,034	8,882	1,152
宇都宮市	3,060	3,002	58	4,285	3,725	560
下野市	1,805	1,721	84	1,273	1,218	55
真岡市	1,457	1,413	44	1,256	1,108	148
小山市	780	722	58	799	686	113
壬生町	523	518	5	393	381	12
栃木市	337	332	5	275	232	43
鹿沼市	249	247	2	167	167	0
その他	1,689	1,643	46	1,586	1,365	221

【昼間人口】

令和 2 年の国勢調査の本町の人口は 30,806 人となっています。昼間人口は 30,672 人、夜間人口は 30,806 人で、昼夜間人口比率は 99.6% となり、主に他の地域から本町に通勤する人口よりも本町から他の地域へ通勤する人口のほうが多くなっています。

語句説明

「流出人口」：本町に常在し、本町以外へ通勤・通学する人口

「流入人口」：本町以外に常在し、本町へ通勤・通学する人口

「昼間人口」：『本町の常在人口－本町からの流出人口＋本町への流入人口』

「夜間人口」：調査時期に本町に常在している人口

「昼夜間人口比率」：『本町の昼間人口÷本町の夜間人口』



図 2－4 流入人口



図 2－5 流出人口

出典「令和 2 年国勢調査結果」（総務省統計局）を元に作成

(4) 自動車・バイク保有状況

自動車（乗用車）の保有台数は年々増加傾向にあり、世帯当たり保有台数も増加しています。また、乗用車の中でも軽自動車の台数が増加している傾向にあり、令和2年度には1万台を超える台数となっています。

バイクの保有台数は減少傾向にあり、1人当たり保有台数は僅かに減少しています。平成17年度と令和2年度の内訳を見てみると、原付自転車の保有数は減少していますが、小型二輪・自動二輪の保有数は増加しています。

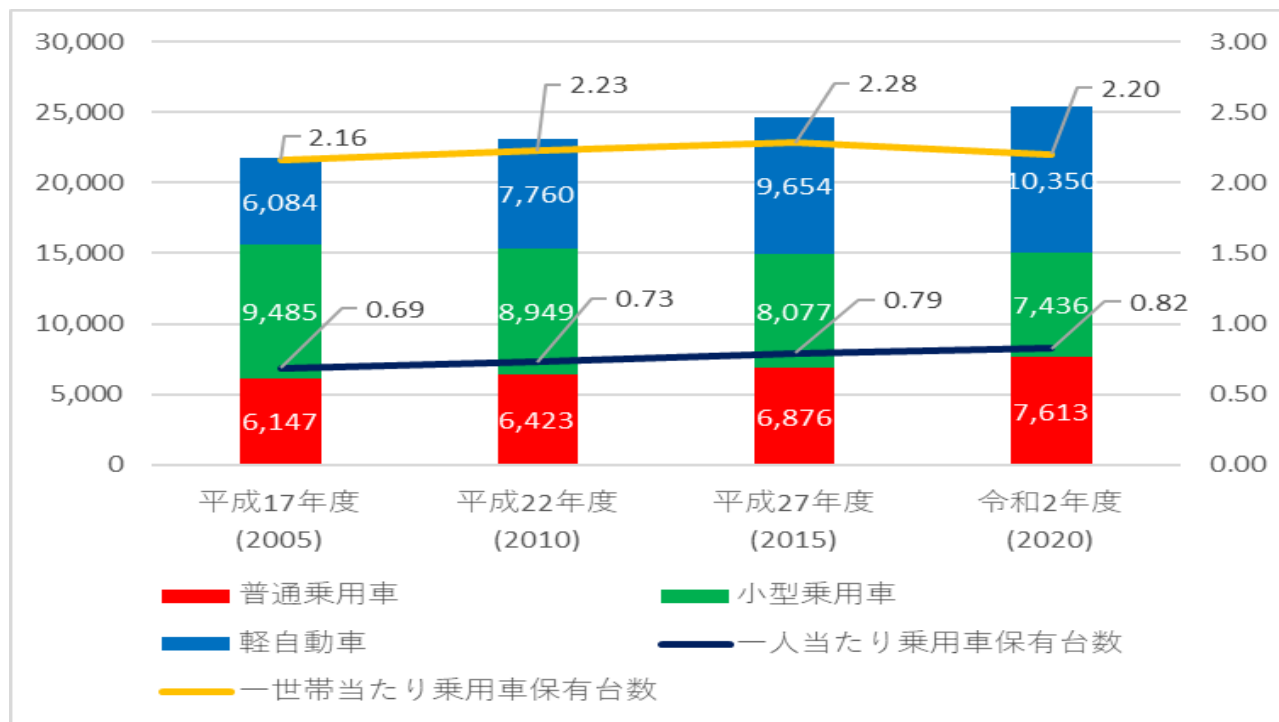


図2-6 自動車（乗用車）の保有状況

出典「令和2年国勢調査結果」（総務省統計局）・「令和6年度統計書」（上三川町）を元に作成

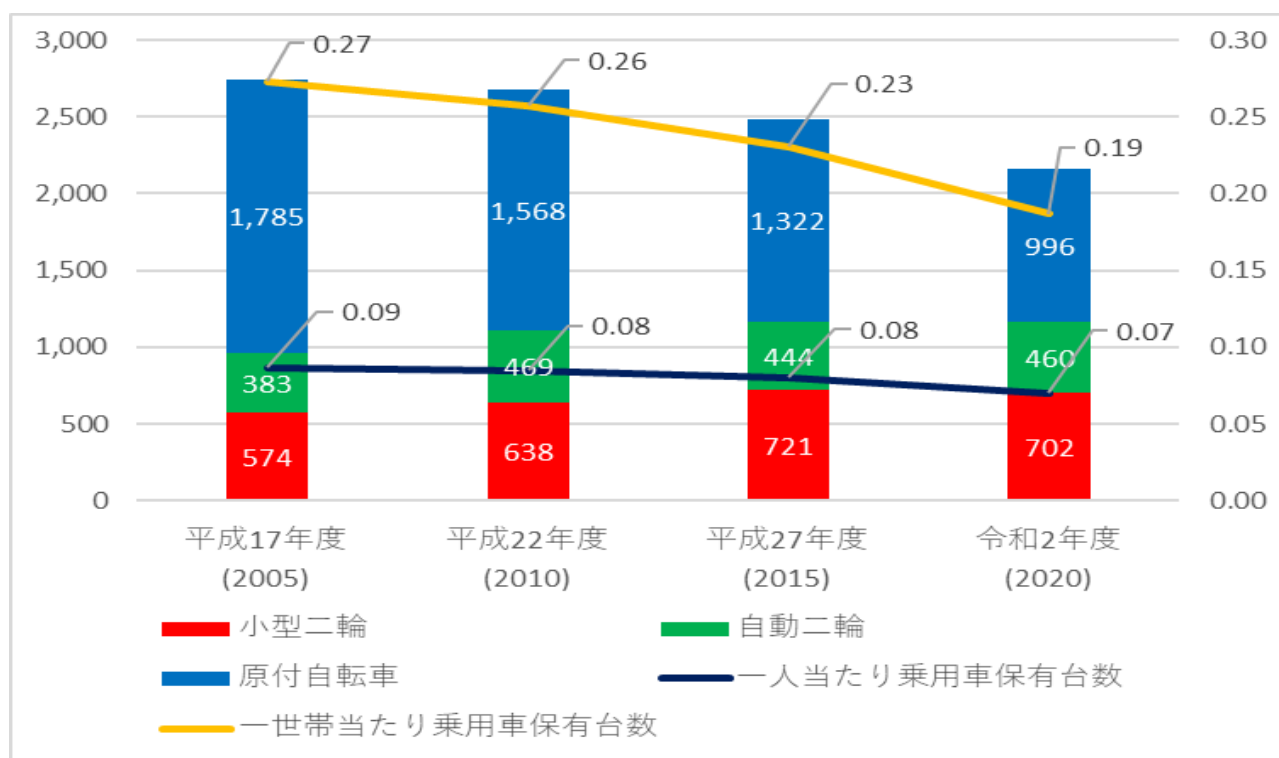


図2-7 バイクの保有状況

出典「令和2年国勢調査結果」（総務省統計局）・「令和6年度統計書」（上三川町）を元に作成

2-3. 施設

(1) 公共施設

本町の中心部にある役場の付近に多くの施設が設置されています。

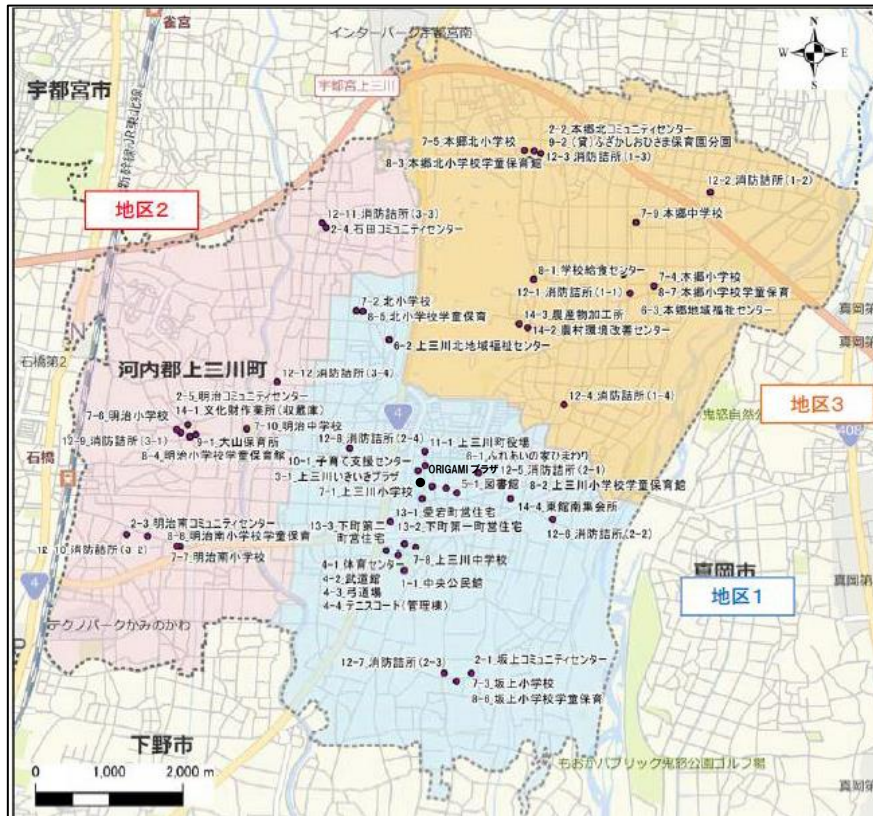


図3-1 町内公共施設位置図

出典：上三川町公共施設等白書（H28.6）

(2) 医療機関

本町の中心部にある役場の付近や、国道や県道など主要な道路沿いに多く設置されています。



図3-2 町内医療機関位置図

出典：上三川町健康カレンダー

(3) 観光施設

観光施設は、本町の中心部である役場付近をはじめ、北西部には上神主・茂原官衙遺跡、南部の田川沿いには桜堤、東部には鬼怒川沿いの蓼沼緑地・親水公園、桃畑緑地公園など町内全域に位置しています。



図3-3 町内観光施設位置図 出典：上三川町町勢要覧 2016（H28.3）

2-4. 交通の現状

(1) 交通手段別の利用者の割合

町民アンケートの結果によると、目的地に向かう際に自家用車（自分で運転する車、家族等が運転する車）を利用する割合は82.9%となり、移動には自家用車を最も利用していることが分かります。また、その他の交通手段のうち公共交通機関を利用する割合は、鉄道3.2%、路線バス1.3%、タクシー1.0%、デマンド交通1.8%で合計7.3%となり、自家用車に比べ利用率が低いことが分かります。

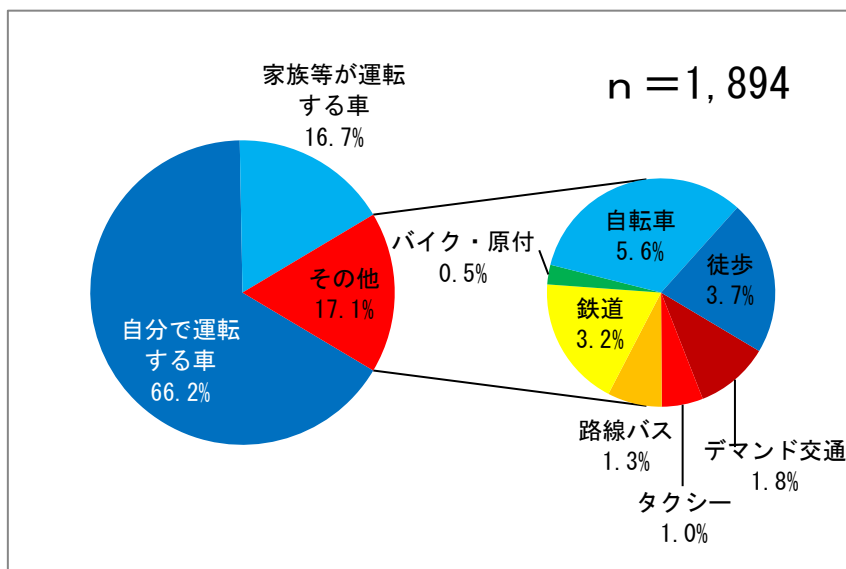


図4-1 目的地に向かう際に利用する交通手段の割合

出典「上三川町地域公共交通アンケート調査」（令和7年2月）を元に作成

(2) 路線バスの現況

系統名	課題・状況等
石橋駅・真岡車庫線	・利用人員は、堅調に推移しています。朝夕における定時性の確保が課題となっています。 ・運行時間帯を拡げてほしいとの要望を受けています。
駒生～屋板～ 上三川車庫線	・朝夕における定時性の確保が運行上の課題となっています。
駒生～FKD～ 上三川車庫線	・定時性の確保（特に休日のインパーク渋滞による遅延）が運行上の課題となっています。
駒生～平松～ 本郷台西汗・東汗線	・路線維持が課題となっています。 ・宇都宮市内の利用は多いですが、単独運行区間の利用は少ない状況となっています。
石橋～宇都宮線	・利用人数はコロナ禍で減少し、横這い傾向にあります。

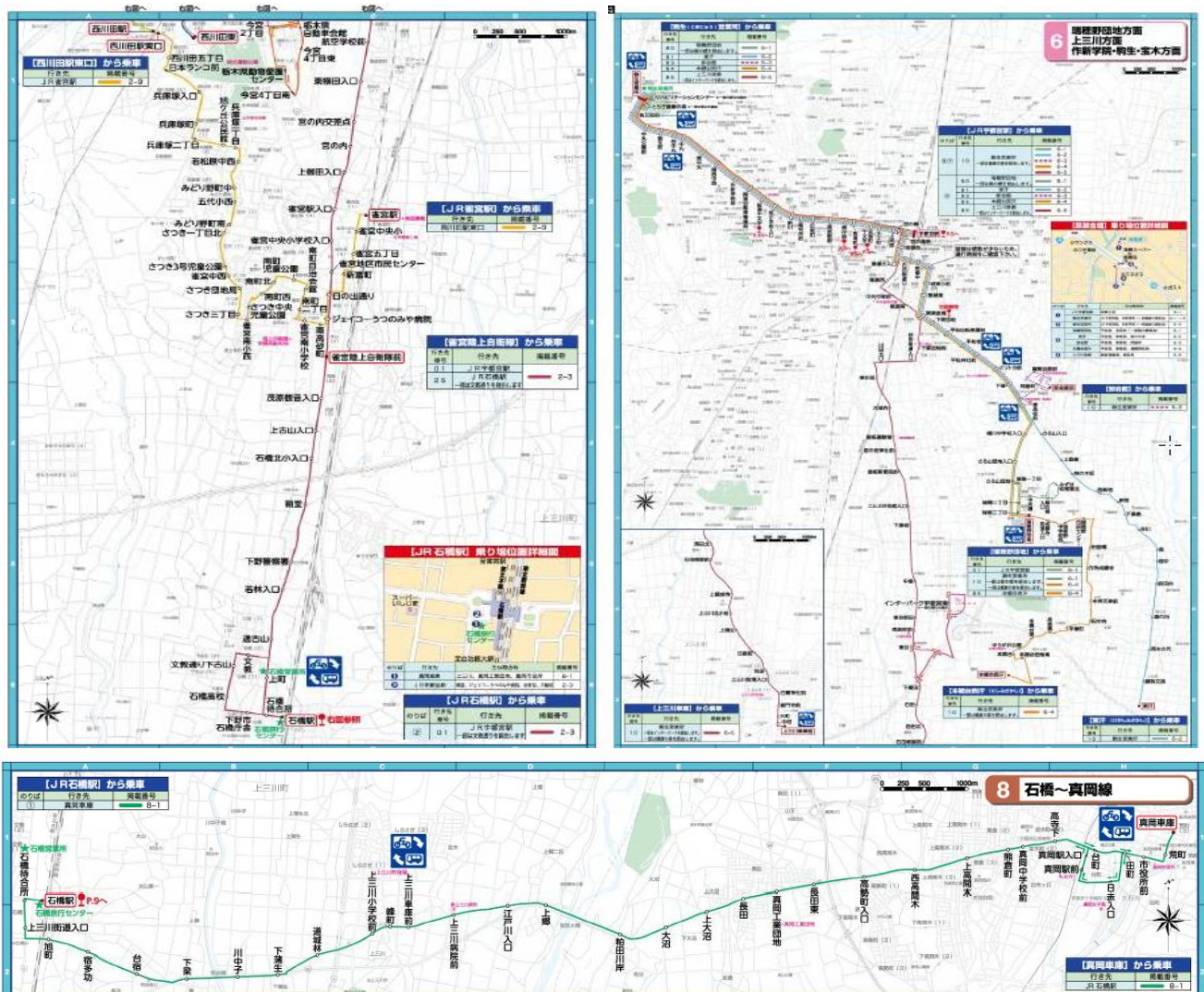


図4-2 路線図（路線バス）

出典「路線図一覧」（関東自動車HP公開資料）を元に作成

（２）－１ 輸送人員の推移

町内を運行する路線バスの路線全線ごとの過去５年の輸送人員推移を見てみると、コロナ禍により令和２年度の利用人数が減っており、その後回復傾向にあります。また、石橋駅・真岡車庫線は利用者が増加している傾向があり、鉄道駅との連結に需要があることが考えられます。

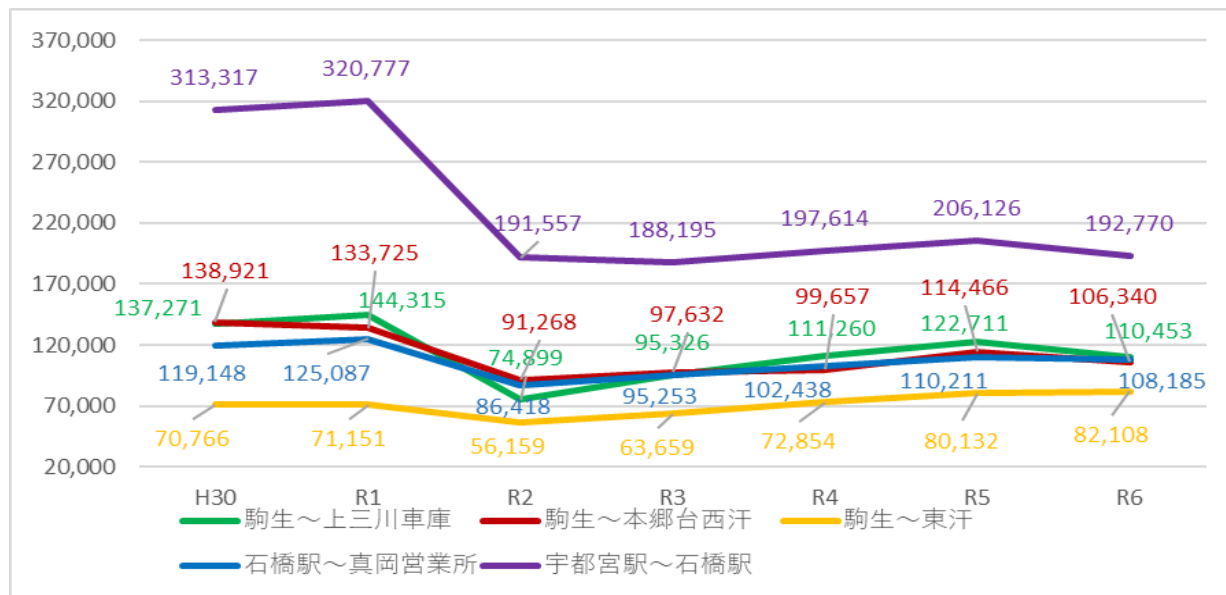


図４－３ 路線バス輸送人員の推移（データ提供：関東自動車㈱）

（２）－２ 路線バス補助金額の推移

町民の日常生活上必要な乗合バス路線の維持確保を図るため、国や県と協調し補助金を交付しています。補助額の推移を見てみると、栃木県バス運行対策費補助金が占める割合が少なくなり、生活バス路線維持費補助金の割合が高くなっています。また、運賃の値上げなどにより、バス事業に対しての補助が少なくなっていることがわかります。

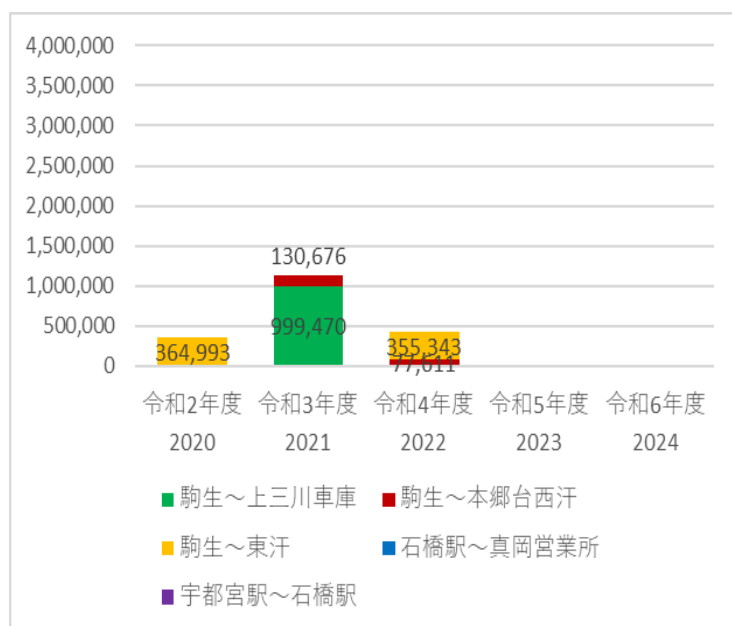


図４－４ 路線バス補助金額の推移
（栃木県バス運行対策費補助金）

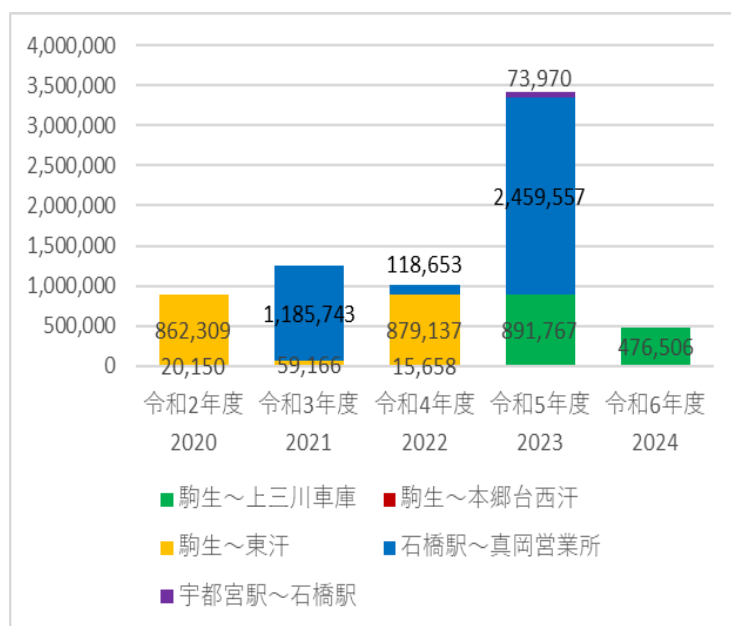


図４－５ 路線バス補助金額の推移
（生活バス路線維持費補助金）

(3) 鉄道の現況

(3) - 1 乗降人員の推移

本町近隣の鉄道駅の1日平均乗車人数の推移を見てみると、すべての駅でコロナ禍により令和2年度の利用人数が減っており、その後回復傾向にあります。

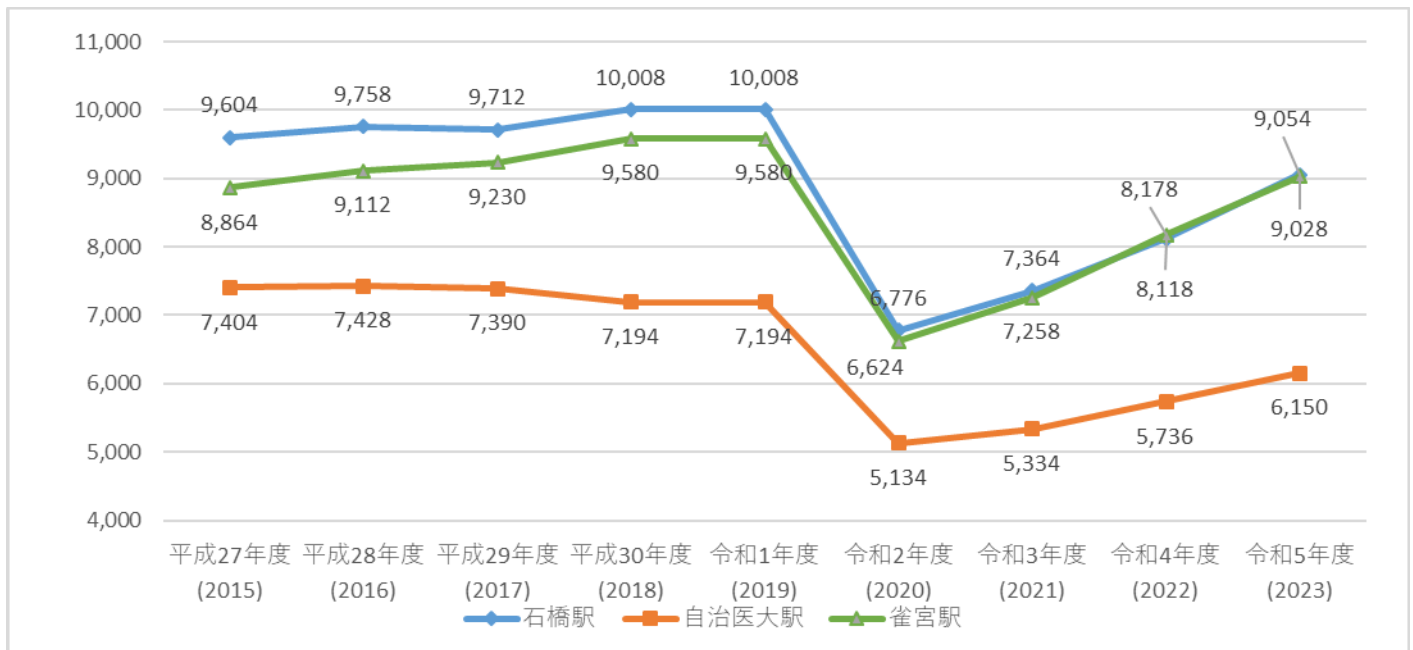


図4-6 鉄道駅一日平均乗車人数の推移

出典「国土数値情報（駅別乗降客数データ）」（国土交通省国土政策局）を元に作成



図4-7 鉄道駅位置図

(4) タクシーの現況

タクシーの輸送人員の推移を見てみると、コロナ禍で輸送人員数が減少したものの、徐々に増加している状況にあります。企業などがカーシェアなどの新しい交通手段に移行している等の理由により、完全にコロナ禍以前には戻っていません。

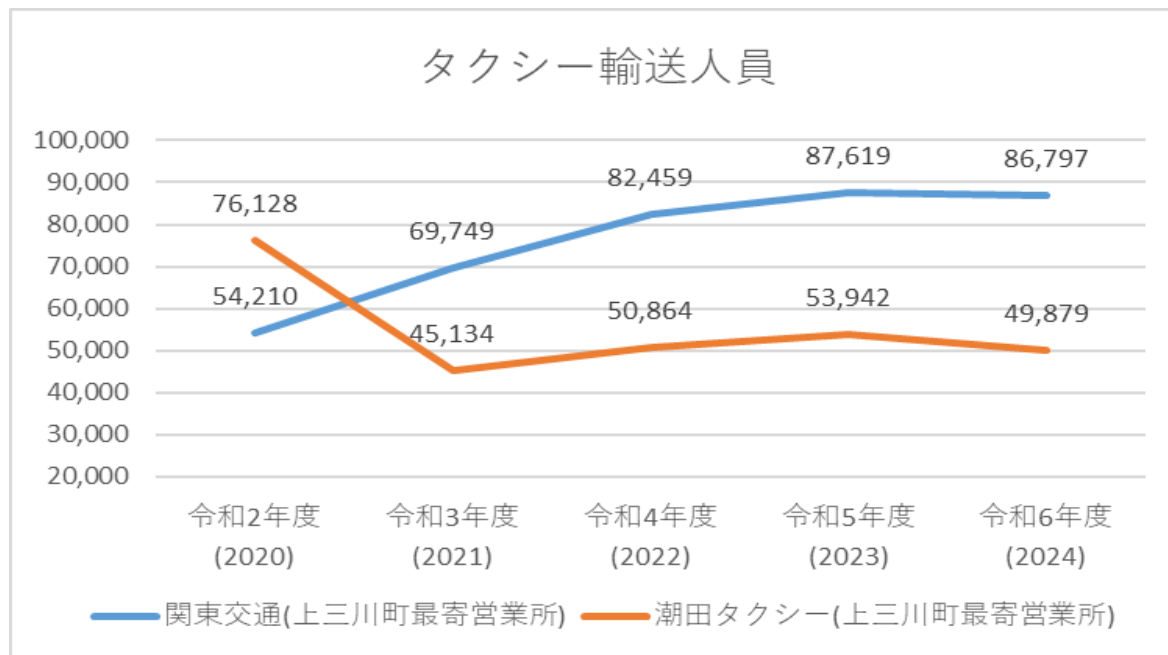


図4-8 タクシー輸送人員推移（データ提供：関東交通㈱、潮田タクシー㈱）

(5) デマンド交通の現況

デマンド交通「かみたん号」の利用人数の推移を見てみると、大きな変動はありません。コロナ禍の際に利用人数は大きく落ち込みましたが、回復している状況にあります。

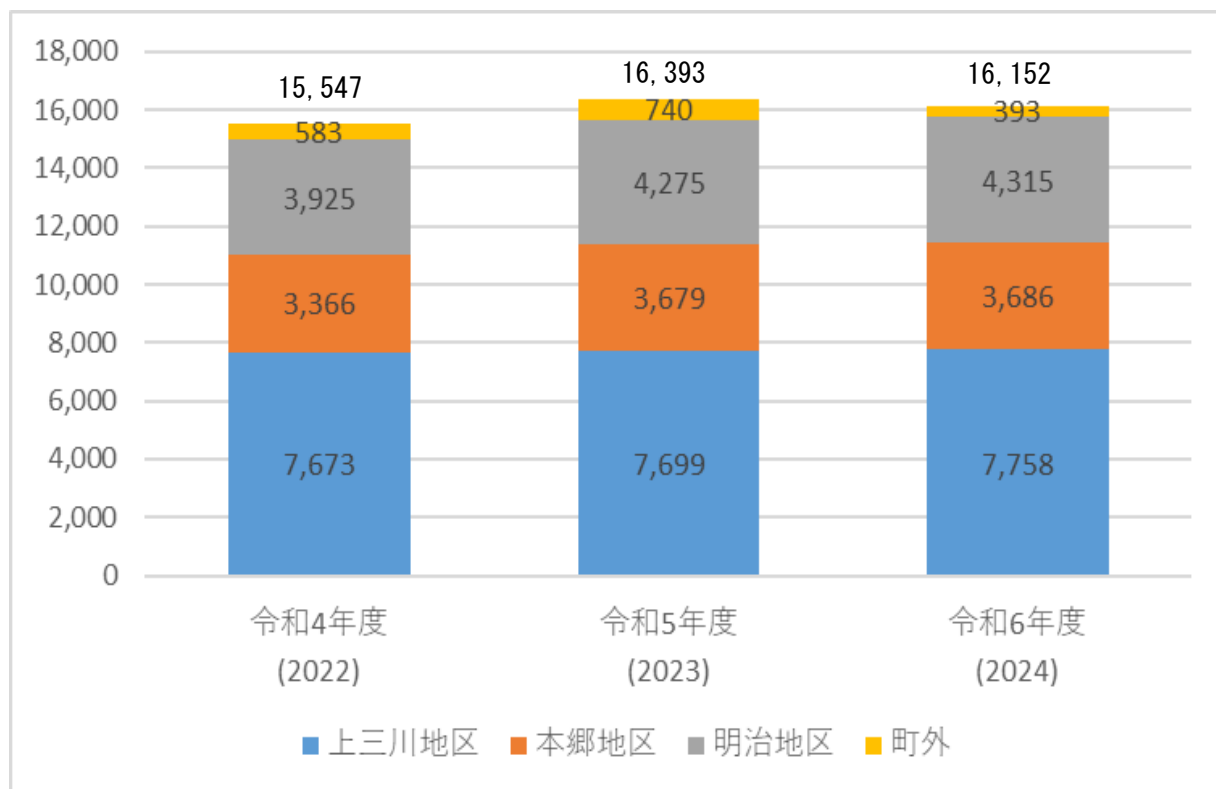


図4-9 デマンド交通利用者数推移（地区別）

(5)－1 デマンド交通の輸送人員の推移（上三川地区）利用者の年齢・目的地

70代・80代の利用が多く、次いで60代の利用が多くなっています。上三川地区の特徴としては、10代以下の利用割合が高くなっていることがあげられます。

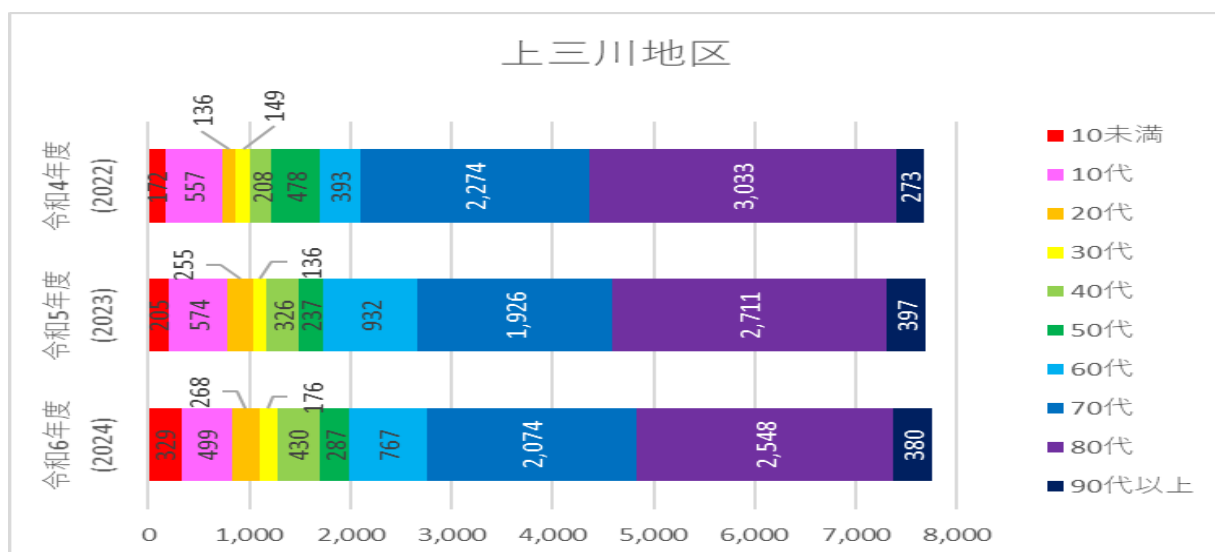


図4－10 上三川地区デマンド交通利用状況（年齢）

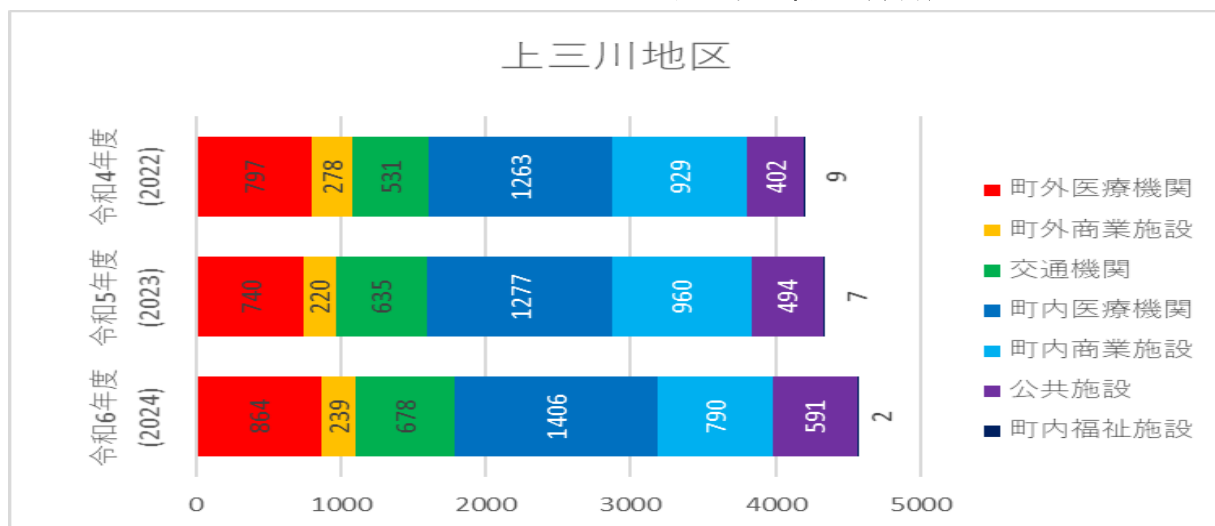


図4－11 上三川地区デマンド交通利用状況（目的施設別）

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
順位	行き先別	人数	順位	行き先別	人数	順位	行き先別	人数
1	JR 石橋駅東口	424	1	JR 石橋駅東口	536	1	JR 石橋駅東口	491
2	倉持整形外科	375	2	石橋総合病院	297	2	石橋総合病院	322
3	自治医科大学付属病院	363	3	倉持整形外科上三川	284	3	自治医科大学付属病院	312
4	石橋総合病院	329	4	自治医科大学付属病院	261	4	FKD インターパーク	287
5	新上三川病院	329	5	FKD インターパーク	258	5	倉持整形外科上三川	284
6	FKD インターパーク	227	6	新上三川病院	200	6	新上三川病院	198
7	ジョイフル本田	170	7	ジョイフル本田	188	7	ジョイフル本田	193
8	たいらや上三川店	109	8	いきいきプラザ	170	8	いきいきプラザ	157
9	せんば医院	108	9	うつのみや病院	157	9	たいらや上三川店	127
10	カスミ上三川店	107	10	たいらや上三川店	109	10	うつのみや病院	124

図4－12 上三川地区デマンド交通利用状況（目的地：上位10施設）

(5) - 2 デマンド交通の輸送人員の推移 (本郷地区) 利用者の年齢・目的地

80代の利用が多く、次いで70代の利用が多くなっています。本郷地区の特徴としては特に高齢者の利用割合が高いことがあげられます。

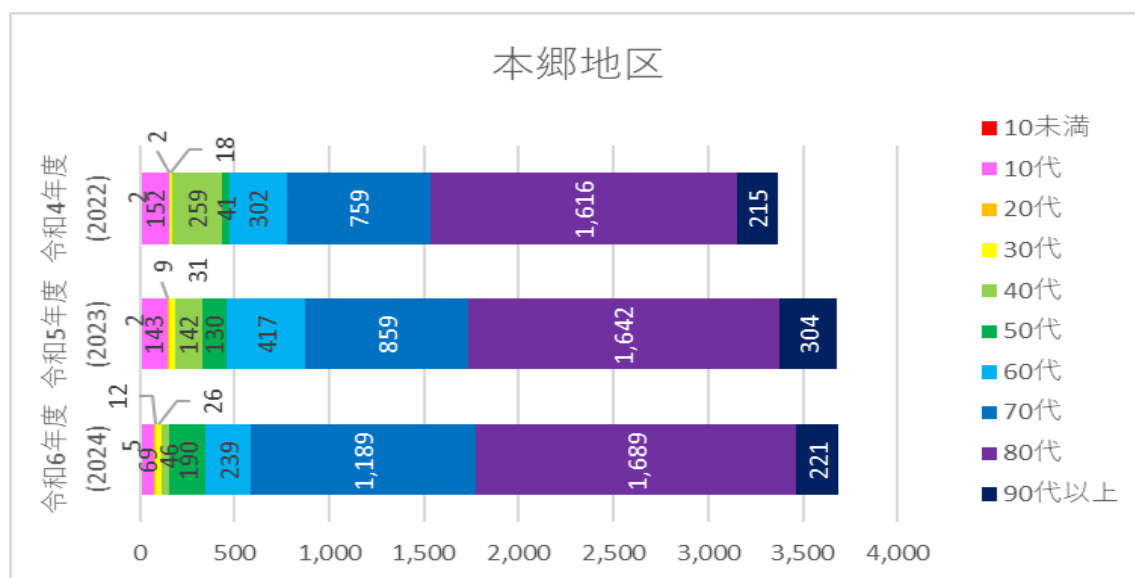


図4-13 本郷地区デマンド交通利用状況 (年齢)

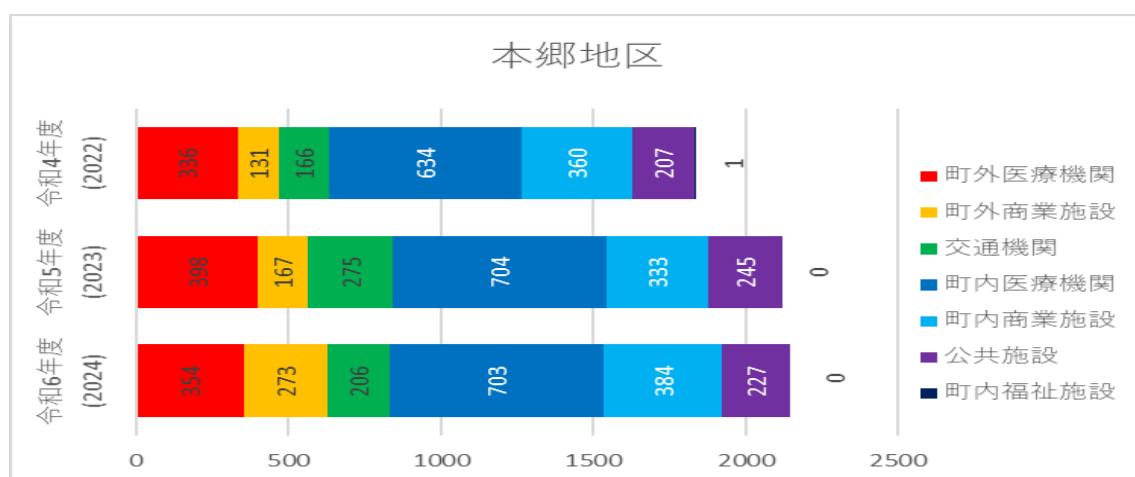


図4-14 本郷地区デマンド交通利用状況 (目的施設別)

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
順位	行き先別	人数	順位	行き先別	人数	順位	行き先別	人数
1	倉持整形外科上三川	189	1	JR 石橋駅東口	227	1	JR 石橋駅東口	202
2	石橋総合病院	159	2	石橋総合病院	131	2	自治医科大学付属病院	128
3	新上三川病院	127	3	倉持整形外科上三川	122	3	石橋総合病院	121
4	FKD インターパーク	126	3	FKD インターパーク	122	4	倉持整形外科上三川	119
5	JR 石橋駅東口	100	5	自治医科大学付属病院	108	5	FKD インターパーク	110
6	自治医科大学付属病院	95	6	新上三川病院	92	6	新上三川病院	92
6	ふれあいの家ひまわり	95	7	ジョイフル本田	88	7	ジョイフル本田	88
8	いきいきプラザ	86	8	うつのみや病院	73	8	うつのみや病院	73
9	うつのみや病院	82	9	いきいきプラザ	66	9	いきいきプラザ	66
10	たいらや上三川店	64	10	たいらや上三川店	59	10	たいらや上三川店	62

図4-15 本郷地区デマンド交通利用状況 (目的地：上位10施設)

(5)－3 デマンド交通の輸送人員の推移（明治地区）利用者の年齢・目的地

70代・80代の利用が多く、次いで50代の利用が多くなっています。明治地区の特徴としては、高齢者の利用が中心ですが、10代の利用割合が高くなっています。

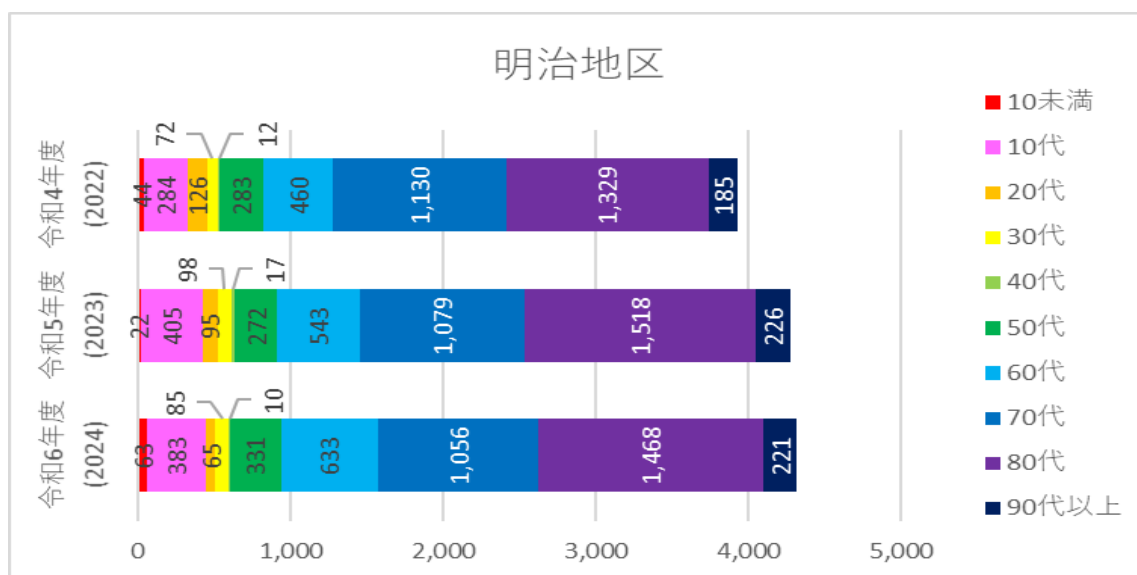


図4－16 明治地区デマンド交通利用状況（年齢）

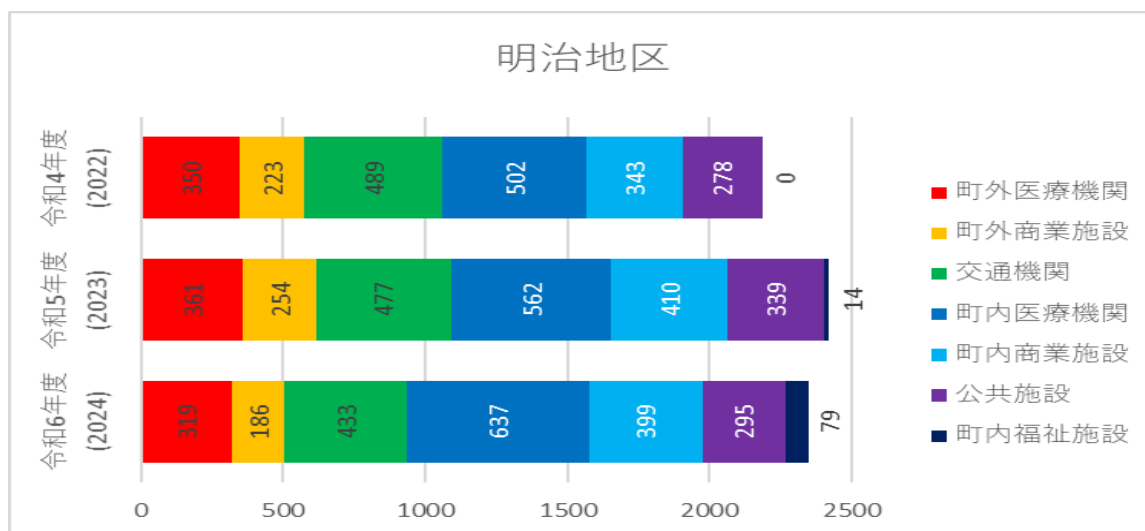


図4－17 明治地区デマンド交通利用状況（目的施設別）

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
順位	行き先別	人数	順位	行き先別	人数	順位	行き先別	人数
1	JR 石橋駅東口	383	1	JR 石橋駅東口	266	1	JR 石橋駅東口	266
2	FKD インターパーク	198	2	石橋総合病院	180	2	石橋総合病院	169
3	石橋総病院	190	3	自治医科大学附属病院	156	3	自治医科大学附属病院	157
4	いきいきプラザ	106	4	倉持整形外科	133	4	FKD インターパーク	144
5	自治医科大学附属病院	89	5	FKD インターパーク	126	5	倉持整形外科上三川	134
6	いざわ整骨院	83	6	新上三川病院	118	6	新上三川病院	104
7	上三川町役場	79	7	ジョイフル本田	100	7	ジョイフル本田	97
8	うつのみや病院	71	8	いきいきプラザ	83	8	いきいきプラザ	79
9	高倉整骨院	69	9	うつのみや病院	81	9	やまだ脳神経外科	67
10	ジョイフル本田	66	10	たいらや上三川店	63	10	たいらや上三川店	66

図4－18 明治地区デマンド交通利用状況（目的地：上位10施設）

(5)－4 デマンド交通運行経費等の推移

近年のデマンド交通の運行経費の内訳を見てみると、補助金と運賃収入の占める割合が少なくなっていることから、町の負担額は増加しています。

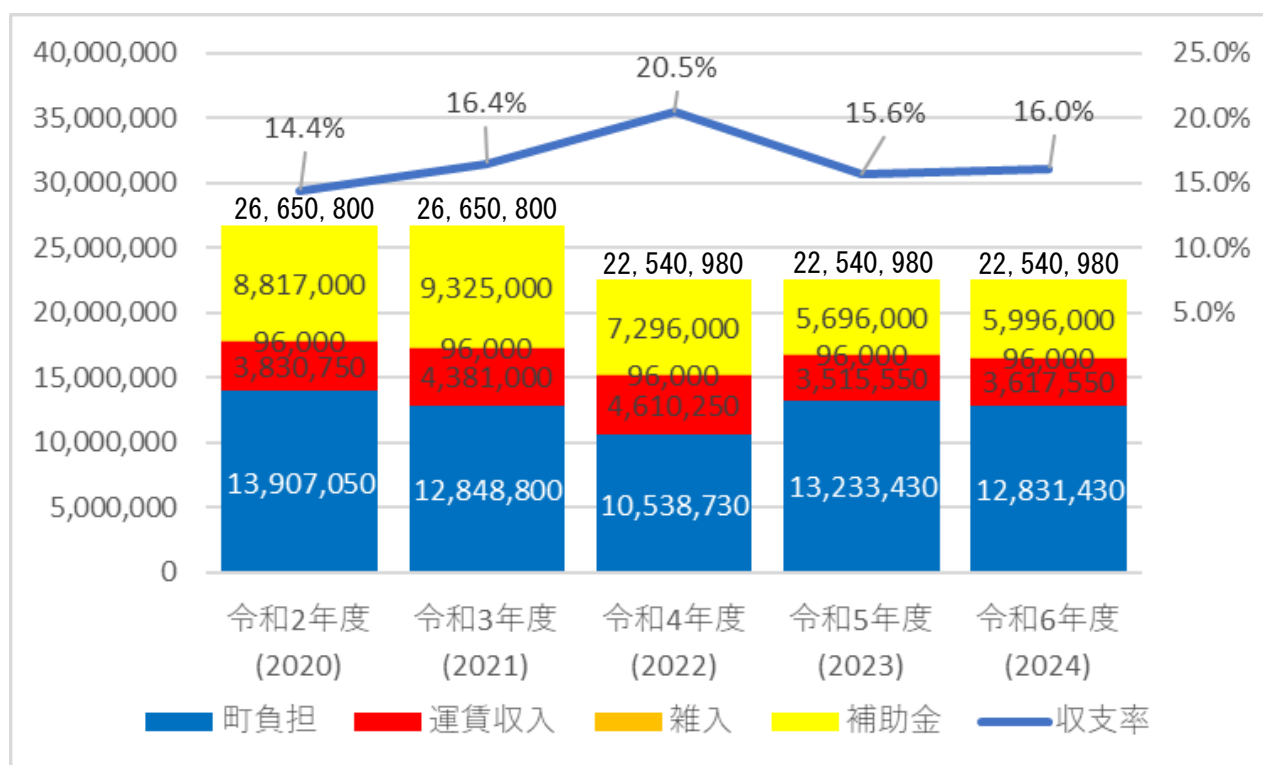


図4－19 デマンド交通運行経費等の推移

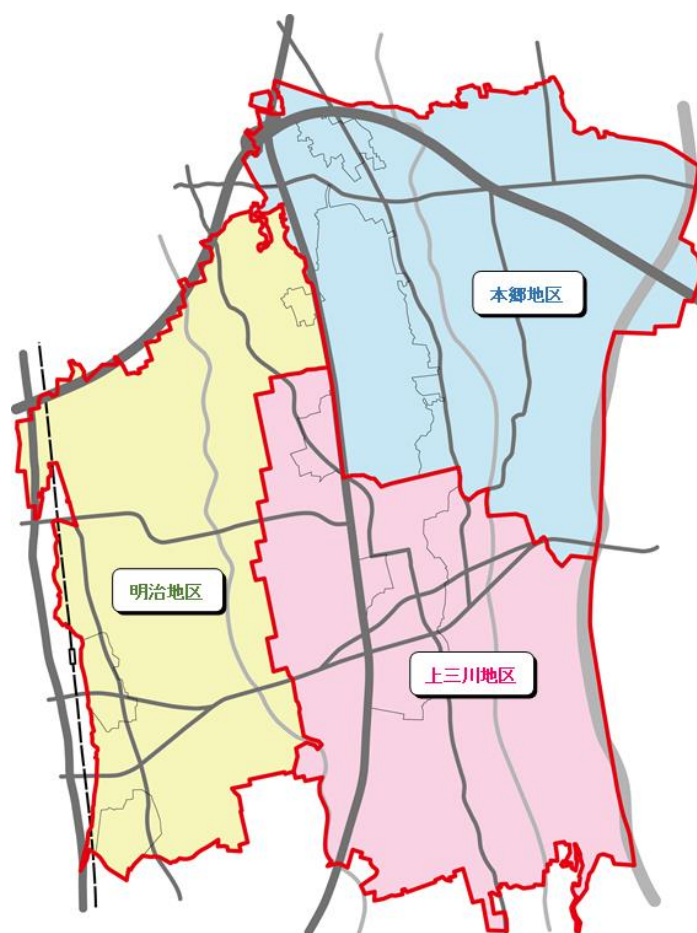


図4－20 上三川町地区区分図

○デマンド交通かみたん号について

(1) 位置付け及び役割

町内の地域間での公共交通サービスの平準化による公共交通空白地の解消、及び高齢者や自動車免許を持たない者等の移動手段の確保を図るため導入しました。

(2) 必要性

公共交通空白地の解消及び高齢者の通院から日用品の買い出し、児童・生徒の塾やクラブ活動での利用など、多くの世代にとって欠かせない移動手段となっており、運行の継続が不可欠です。一方で、町の運営努力だけでは運行の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要があります。

(3) 利用者数・収支

前項参照(図 4-19)

(4) 国県町の負担について

現在、財源となっている運賃収入、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金及び特別交付税に加え、栃木県の市町村生活交通路線運行費補助金の採択を目指し、運行の持続可能性を高めます。

2-5. 町内の公共交通空白地帯

広域幹線として町外の拠点に連絡する鉄道駅は、本町西部の下野市に J R 石橋駅があります。

地域内幹線として、町内外の拠点間を連絡する民間バス路線は、石橋駅を拠点とし、真岡市方面に町内を横断連絡する石橋―真岡線や、石橋駅から国道 4 号線沿いを運行する石橋―宇都宮線、石橋駅から下野市の文教通り、壬生町の東武おもちゃのまち駅を経由し、獨協医科大学付属病院までを結ぶ、ゆうがおバス石橋―獨協線があります。

町中心部にも、宇都宮駅と連絡する駒生―上三川車庫線、北東部にも駒生―東汗線・本郷台西汗線がありますが、駅・バス停からのサービス圏域で見ると公共交通空白地域が多い状況でした。

平成 25 年 3 月から、町内全域を範囲としたドア to ドア方式のデマンド交通を導入し、町内どこからでもバス停留所や鉄道駅など地域拠点に接続できるようになったことにより、本町における公共交通空白地域は解消され、また、町内クリニックや近隣総合病院への通院、スーパーマーケットなどへの生活必需品の買い出し、児童生徒の塾通いなどの不便も解消しました。

令和 3 年 4 月から、デマンド交通にインターネットによる予約システムを導入し、利用者の利便性の向上を図っております。

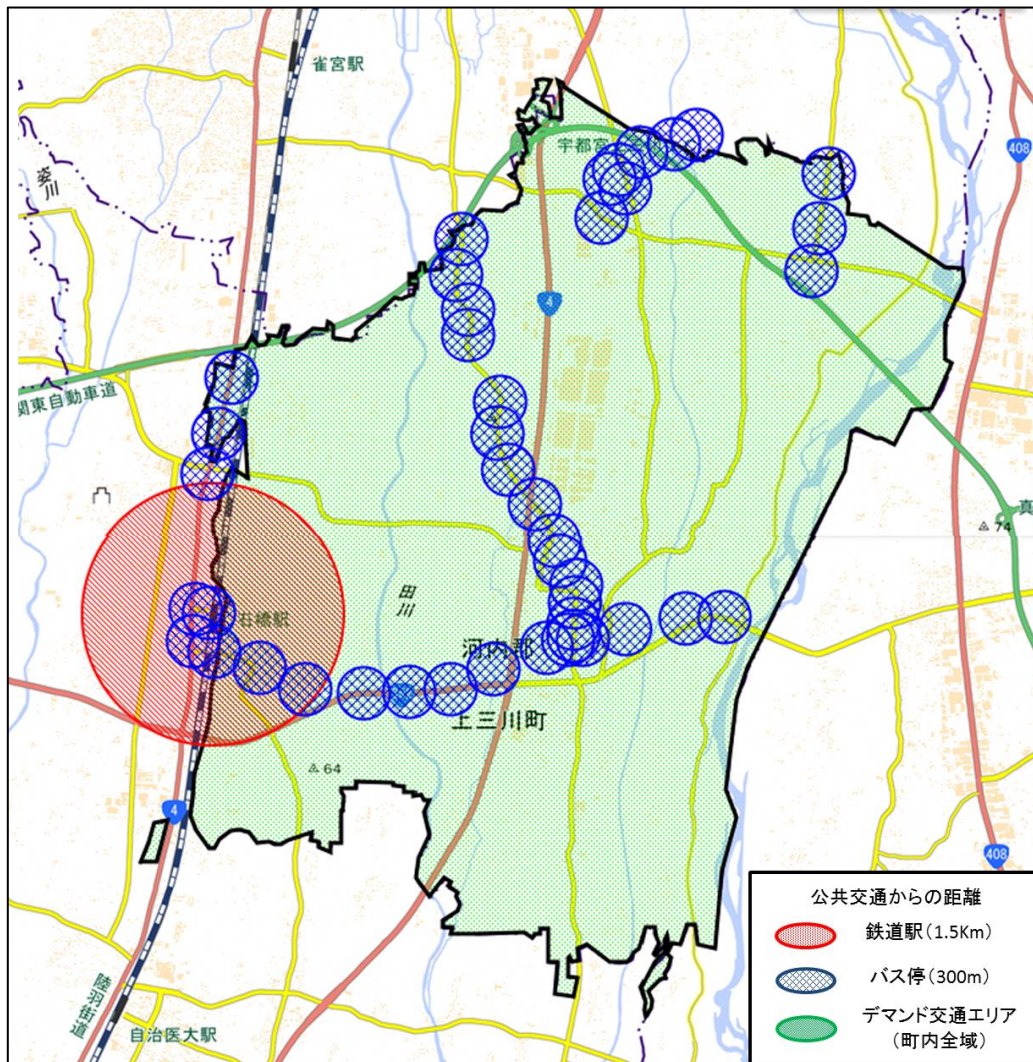


図5-1 上三川町の公共交通空白地

【鉄道駅・バス停のサービス圏域】

- ・鉄道については、駅までのアクセス時間が5分～15分（徒歩・自転車）の範囲である半径1.5kmを鉄道駅圏域として設定しています。
- ・バスについては、道路の移動円滑化ガイドライン等で歩行者が気軽に歩ける距離が200～400mとされていることを考慮し、バス停から半径300m圏域として設定しています。

※参考「とちぎの公共交通」

【デマンド交通】

- ・ドア to ドア方式で町内全域がサービス圏域のエリアとなっています。

3 地域公共交通の利用実態

3-1. 町民アンケート

公共交通に対する住民の意向を把握するため、アンケート調査を実施しました。

- ・ 調査対象者 公共交通を通勤・通学・日常生活で利用すると想定される15歳以上の町内在住者1,500人（上三川・本郷・明治各地区500人ずつ）
- ・ 配布数 1,500件（上三川・本郷・明治地区 500件ずつ）
- ・ 抽出方法 無作為抽出
- ・ 調査方法 郵送方法
- ・ 調査時期 令和7年2月
- ・ 調査地域 町内全域
- ・ 有効回収数 583票
- ・ 有効回収率 39.0%

（1）回答者の属性

回答者の男女比は男性41%、女性51%、年代別で見ると50～64歳が27%、65～74歳22%、75歳以上が19%となっていますが、幅広い年齢から回答がありました。

また、居住地別（小学校区単位）では幅広い地区から回答があり、全体の割合は、上三川地区48%・本郷地区25%・明治地区26%の回答がありました。

職業別でみると会社員・公務員33%、無職22%が多くなっていますが、徒歩・自転車以外の交通手段を利用して通学する機会が増える学生も6%と幅広い職業から回答がありました。

免許の有無で見ると86%の方が免許を持ち、自分用の自動車がある方が72%、いつでも使える家族共用車が9%で計81%となり、本町の免許保有者のほとんどに、いつでも使える自動車等があるということが分かります。

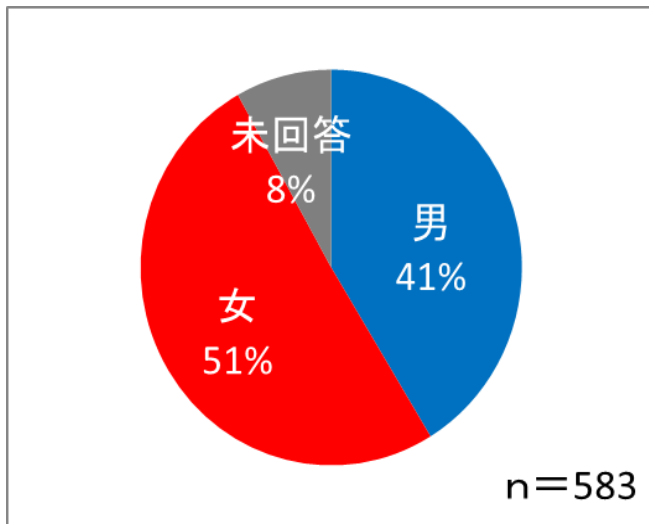


図 6 - 1 性別

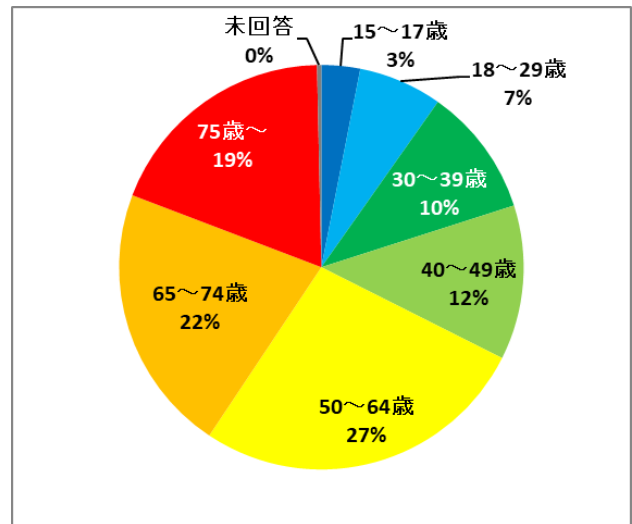


図 6 - 2 年齢別

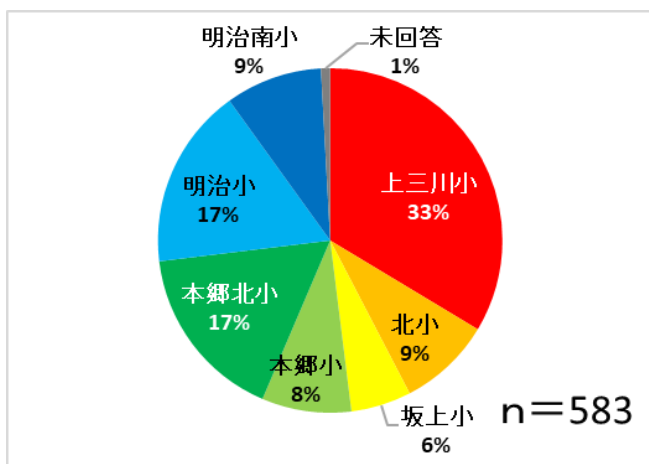


図 6 - 3 居住地区

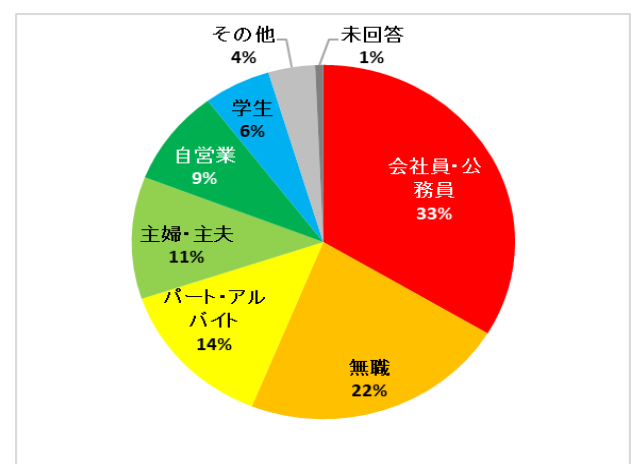


図 6 - 4 職業別

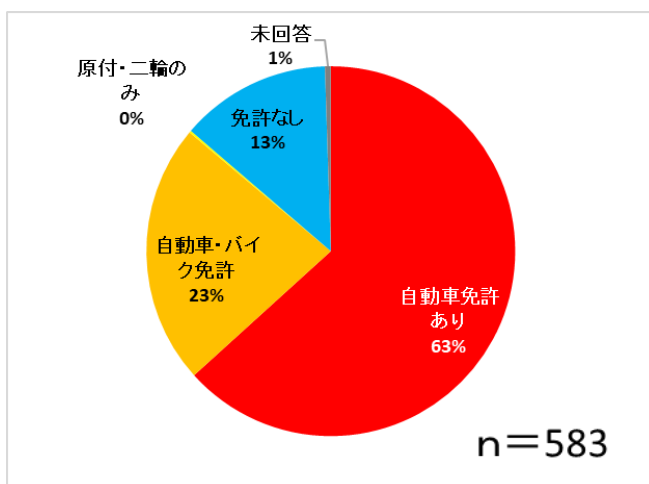


図 6 - 5 免許の有無

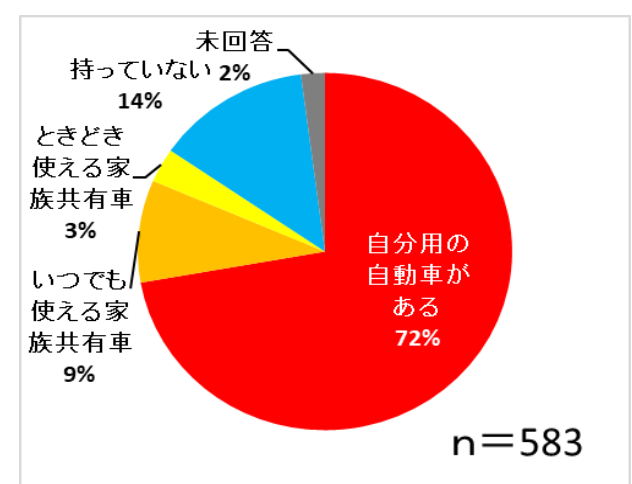


図 6 - 6 自動車等の所有

(2) 鉄道

鉄道を「よく利用する」、「時々利用する」と回答した人が26%、「ほとんど利用しない」、「まったく利用しない」と回答した人が72%でした。利用しないと回答した主な理由は、「自家用車の方が便利」が38%、「用事がない」が35%、「駅まで遠い」が16%となっています。その他の意見としては、「行った先が駅から遠い」といったものがありました。

鉄道利用者がもっとも良く利用する駅は「石橋駅」77%、「雀宮駅」14%、「自治医大駅」が3%で、本町と西端で隣接している石橋駅の利用が一番多いことが分かりました。

また、最寄駅までの所要時間は「10～15分」が最も多く43%、続いて「5～10分」25%、「15～20分」21%となっており、駅が町内にないこともあり比較的時間がかかる傾向にあります。

鉄道を利用する理由としては、「時間が正確で早い」が30%、「自宅や目的地が駅に近い」が27%となっています。

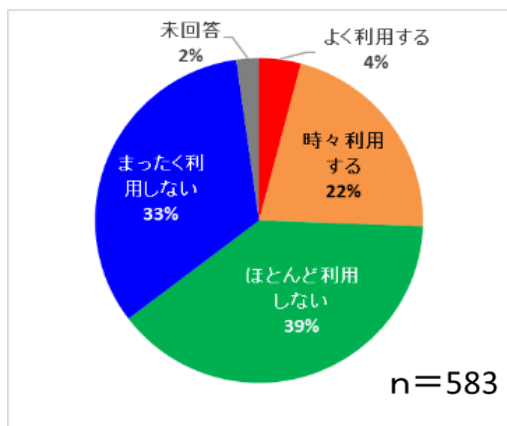


図6-7 鉄道利用

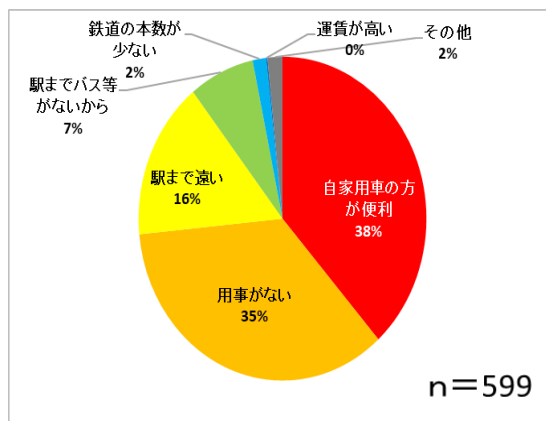


図6-8 利用しない理由（複数回答）

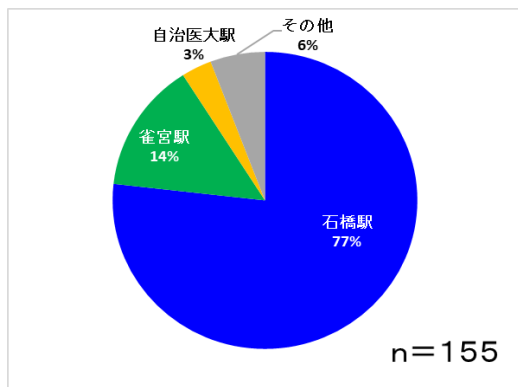


図6-9 よく使う駅

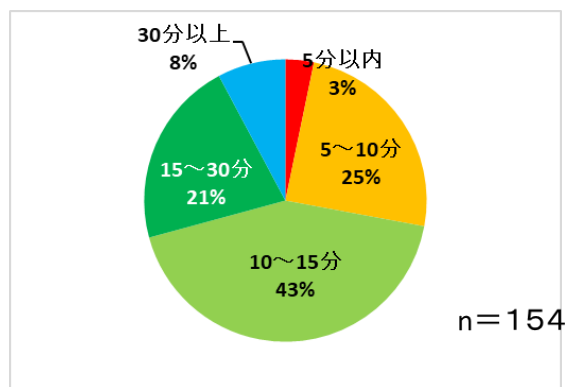


図6-10 自宅から最寄駅までの所用時間

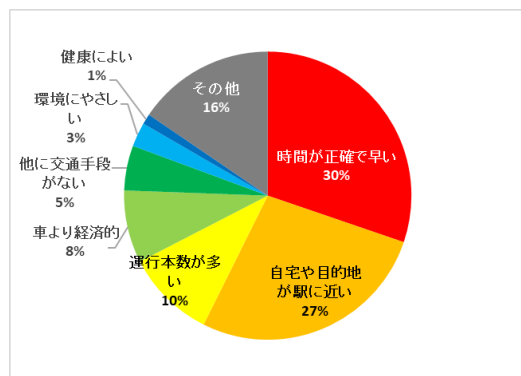


図6-11 鉄道を利用する理由

(3) バス

バスを「よく利用する」、「時々利用する」と回答した人が5%、「ほとんど利用しない」、「まったく利用しない」と回答した人が91%で、路線バスはあまり利用されていない状況が分かりました。

利用しないと回答した人達の主な理由は、「自家用車の方が便利」が48%、「バスが通っていない」が12%、「運行本数が少ない」が11%となっております。その他の意見としては、「バス停がどこにあるか分からない」や「行き先が分からない」といったものがありました。

バス利用者が良く利用する停留所は「石橋駅」、「上三川小学校前」、「本郷台・ゆうがお公園」で、目的地は「石橋駅」や「宇都宮駅・宇都宮市内」ということが分かりました。

また、バスを利用する人の理由としては、「自宅や目的地が駅に近い」が38%、次いで「他に交通手段がない（車や免許がない）」が27%となっています。

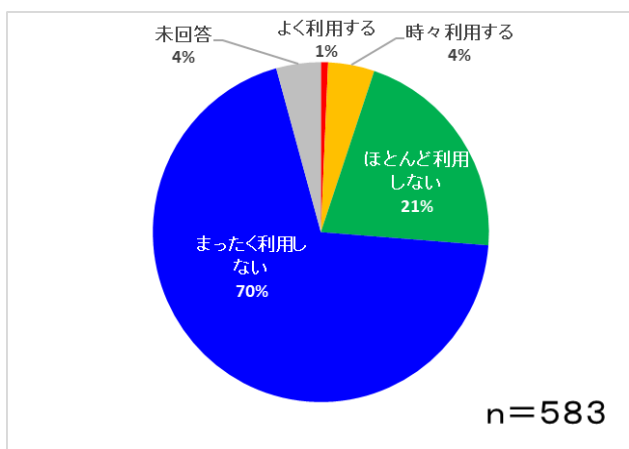


図 6 - 1 2 バス利用状況

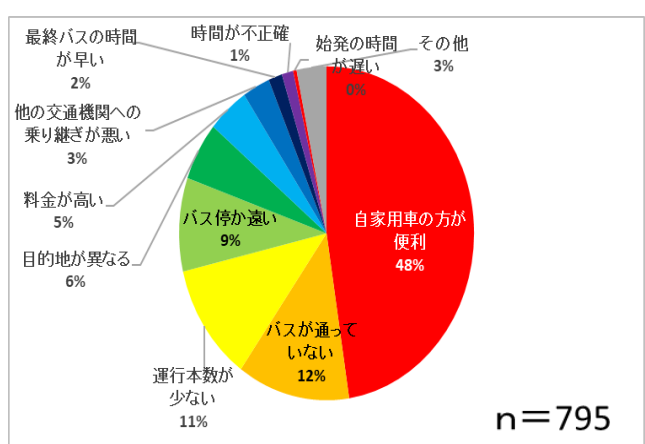


図 6 - 1 3 バスを利用しない理由（複数回答）

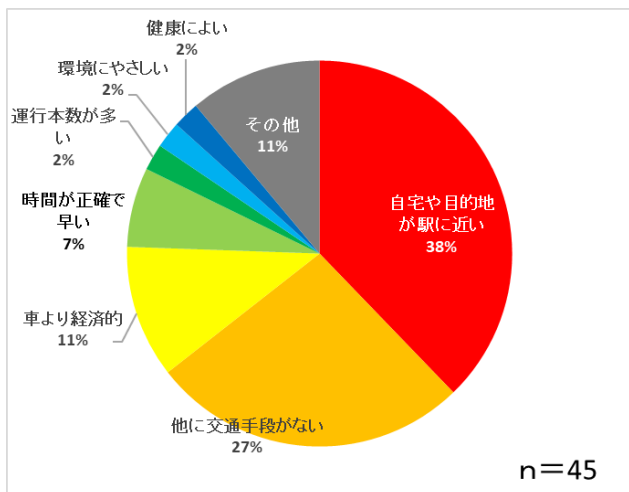


図 6 - 1 4 バスを利用する理由

(4) デマンド交通

デマンド交通「かみたん号」を「よく利用する」、「時々利用する」と回答した人が5%、登録しているが「ほとんど利用しない」、「まったく利用しない」と回答した人が14%となっています。

また、利用者の感想としてはオペレーターの対応や運転手の対応、乗車中の安全性については、「満足」、「やや満足」の合計が半数を超え、利用者の満足度が高いことが分かります。一方、運行台数や運行区域などの項目については満足度が低いことが分かります。

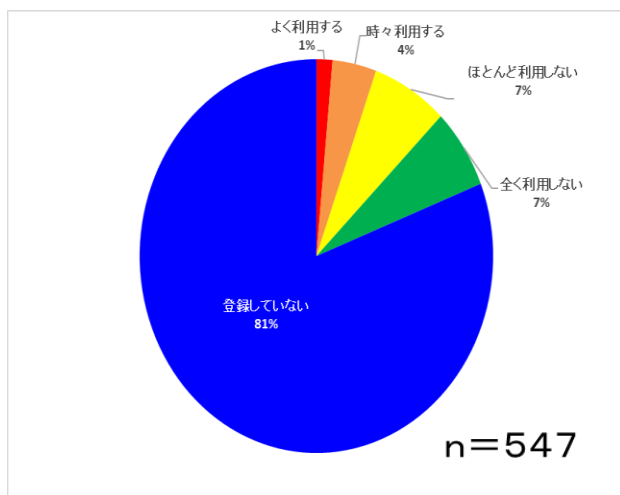


図6-15 デマンド利用状況

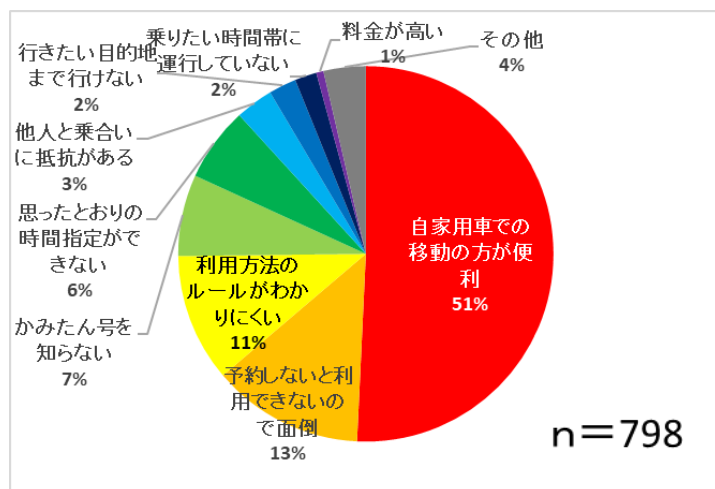


図6-16 デマンドを利用しない理由
(複数回答)

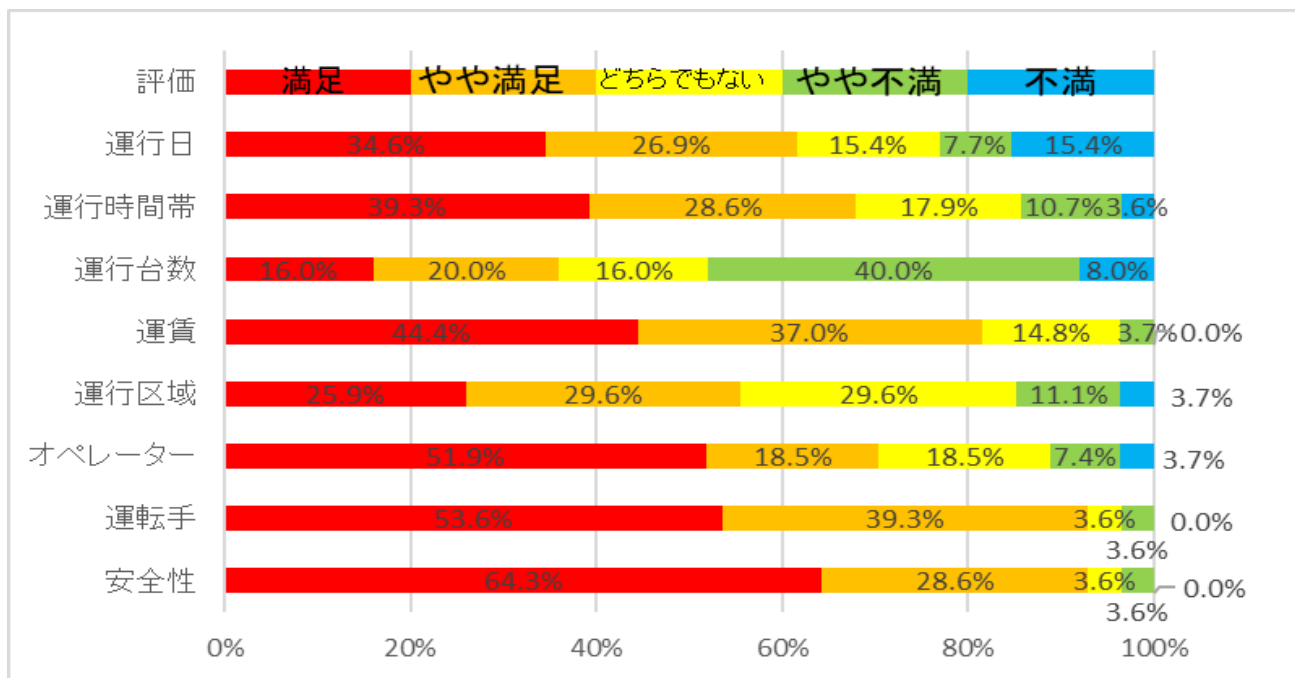


図6-17 デマンドを利用した感想

(5) 満足度

本町の公共交通に対する満足度について調査したところ、「どちらともいえない」を除き、「満足、やや満足」と回答した割合と「やや不満、不満」と回答した割合を比較したところ、「通勤・通学の移動」・「買物の移動」・「医療機関への移動」については「不満」の割合が多くなっていますが、「総合的な生活」では「満足」「やや満足」と回答した割合が多くなっています。

将来の生活に関する調査では、「ひとりで十分できる」と「ひとりでなんとかできる」を合計した83%の人が現在は「ひとりで外出できる」と回答していますが、10年後の不安については、「不安がある」、「少し不安がある」を合計した56%の人が何らかの「不安がある」と回答しています。

鉄道の満足度に関する調査では、全体的には「満足な点」の項目が多く、「運行時間の正確さ」や「目的地までの行きやすさ」、「目的地までの所要時間」については満足度が高くなっています。一方、「鉄道とバスの乗り継ぎ」については満足度が低くなっています。

バスの満足度に関する調査では、全体的には「不満足な点」の項目が多く、「運行本数」や「自宅とバス停の距離」についての満足度が低くなっています。

デマンド交通とバス交通については、半数以上の人が「将来、車を手放した際には必要になる」と回答しています。

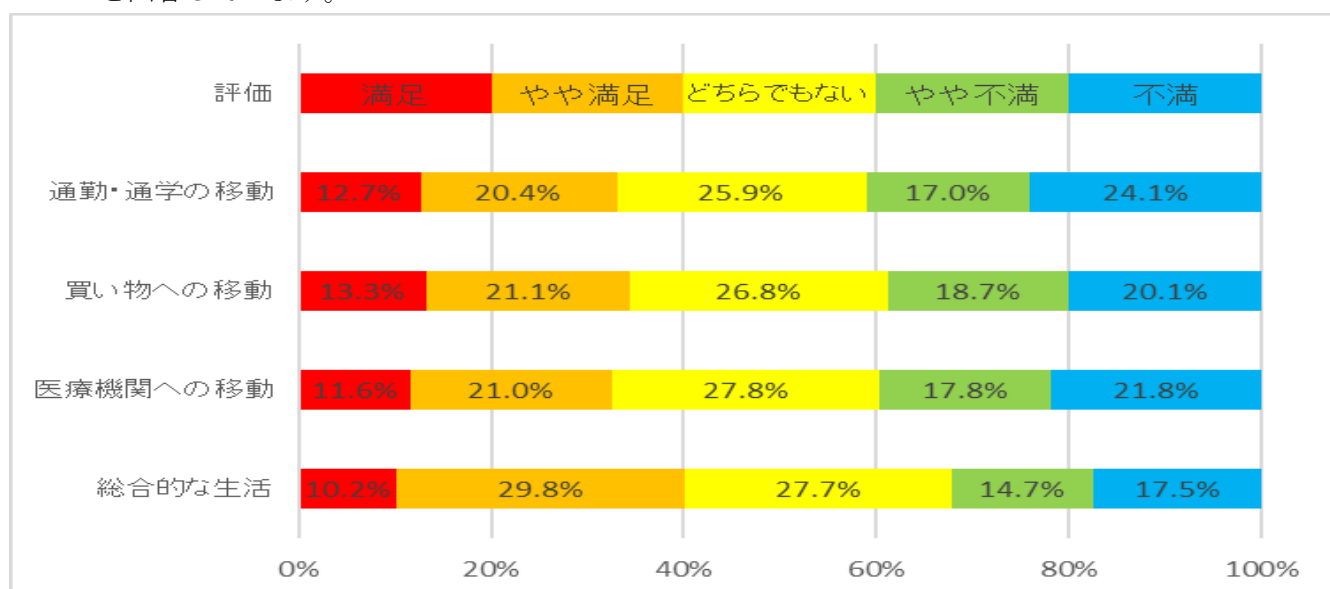


図6-18 上三川町の公共交通満足度

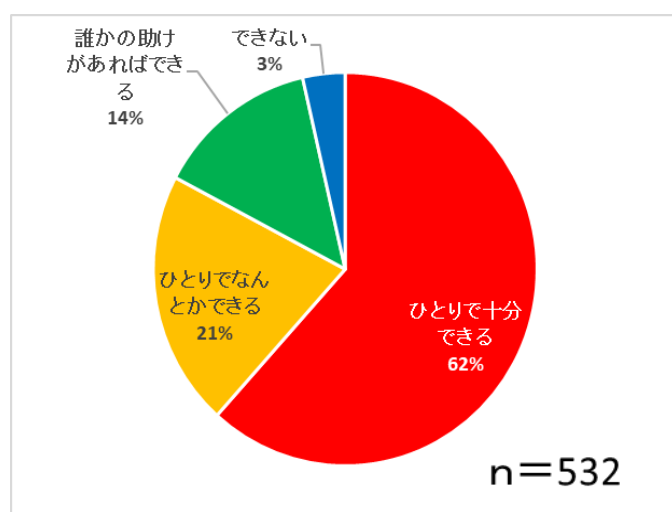


図6-19 現在の外出状況

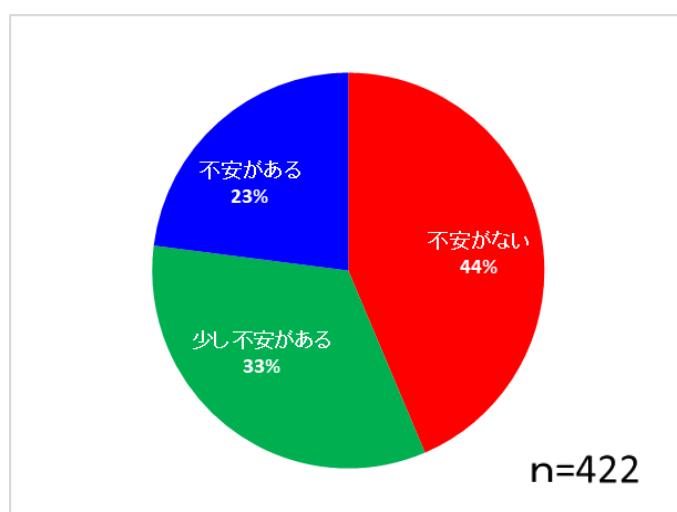


図6-20 10年後の不安

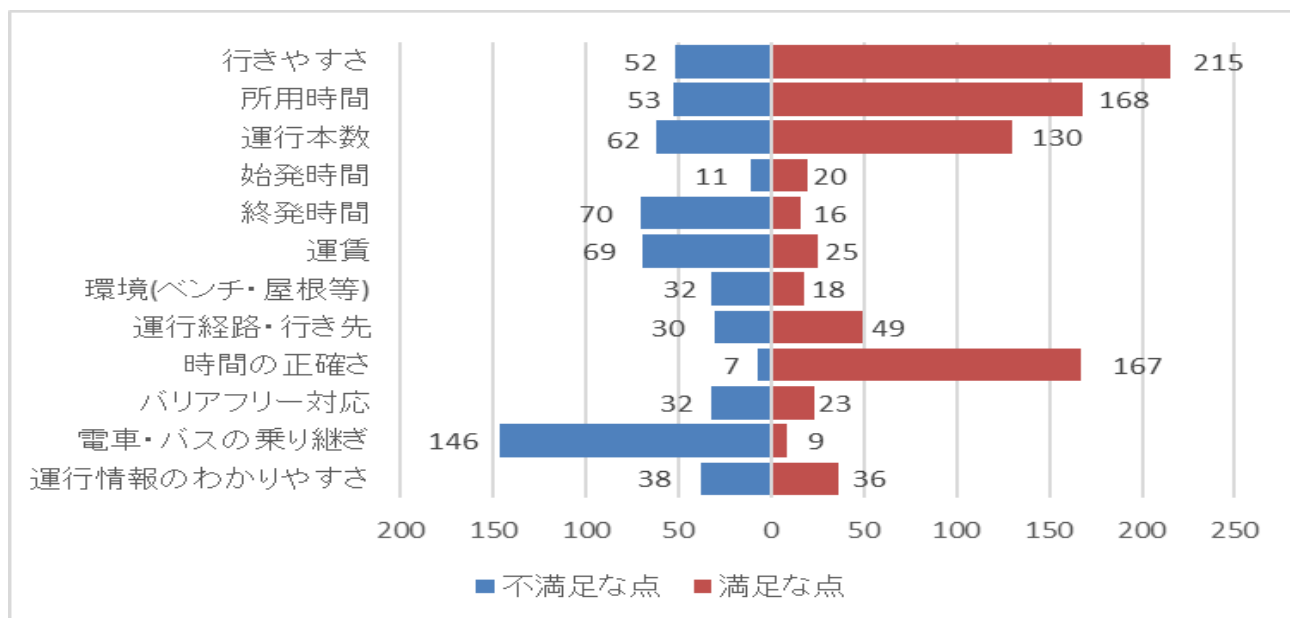


図 6 - 2 1 鉄道に関する満足な点・不満足な点

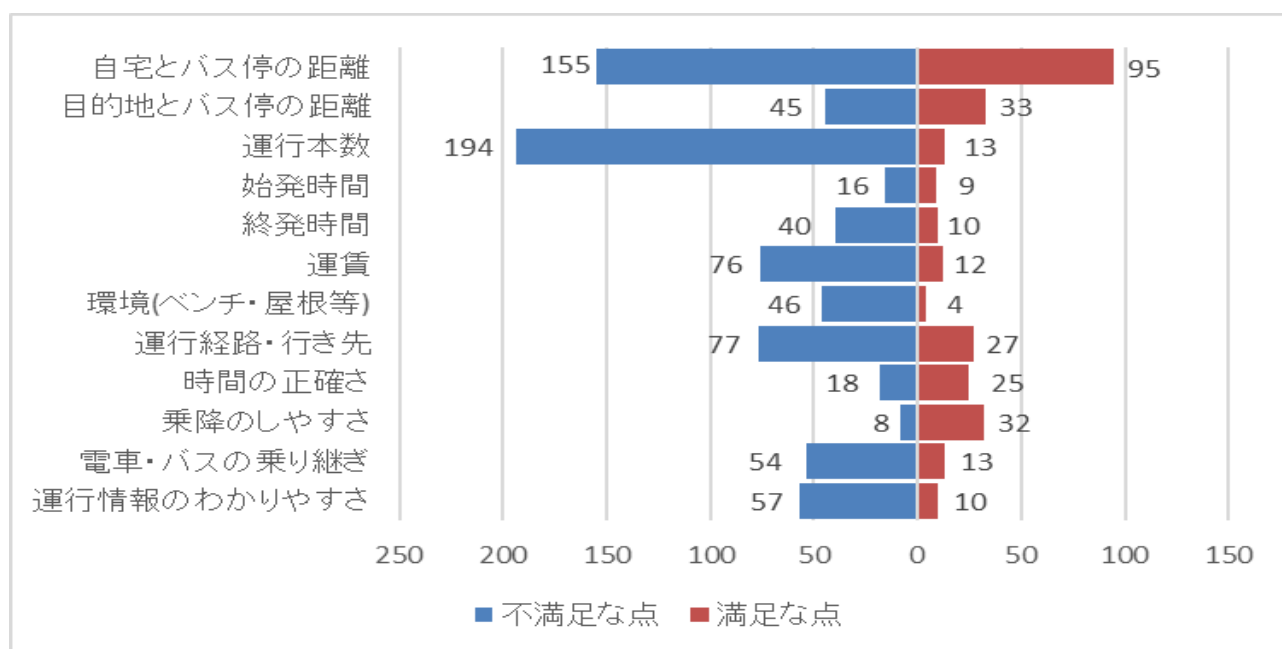


図 6 - 2 2 バスに関する満足な点・不満足な点

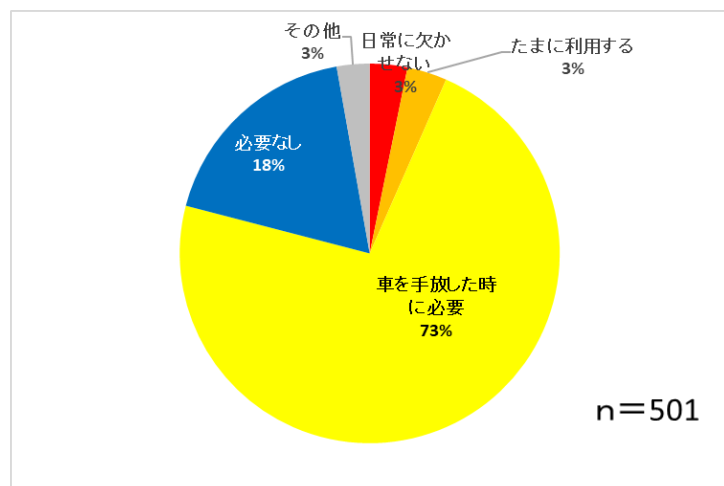


図 6 - 2 3 あなたにとってデマンド交通とは

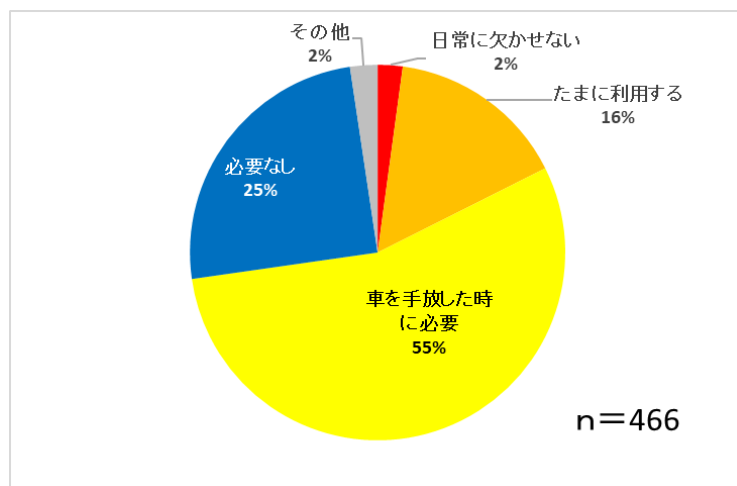


図 6 - 2 4 あなたにとってバス交通とは

(6) よりよい公共交通にするために必要なもの

よりよい公共交通を構築していくために必要なものとして、「広域的な交通ネットワークの形成」や、「駅への接続性の向上」など、公共交通による町外への連結についての項目が上位に来ており、次いで「分かりやすい公共交通の情報を提供する」といった情報に関する内容の項目が続いている。また、「バス路線を増やす」「デマンド交通の運行時間を増やす」のような町内の公共交通の利便性を求める声が上位にあることがわかりました。

1	上三川町の近隣市町と連携し、広域公共交通ネットワークを形成する。	229
2	駅への接続性を良くする。	162
3	分かりやすい公共交通の情報を提供する。	150
4	バス路線を増やす。	149
5	デマンド交通の運行時間を増やす。	139
6	デマンド交通の台数を増やす。	135
7	高齢者や障がい者の割引率を向上させる。	117
8	バスの運行本数を増やす。	111
9	その他	39
10	バリアフリーを進める。	24

表 6－25

アンケート問 6－6 「今後、上三川町の公共交通をよりよくしていくためには、何が必要だと思いますか（最大 3 つまで回答）」の回答数

免許証返納者数

本町における運転免許証自主返納奨励事業については、年間を通して60件前後の申請数がある。全国的に見ると、免許証の自主返納数は令和元年をピークに減少傾向にありますが、令和6年度は42万7千件を超えています。

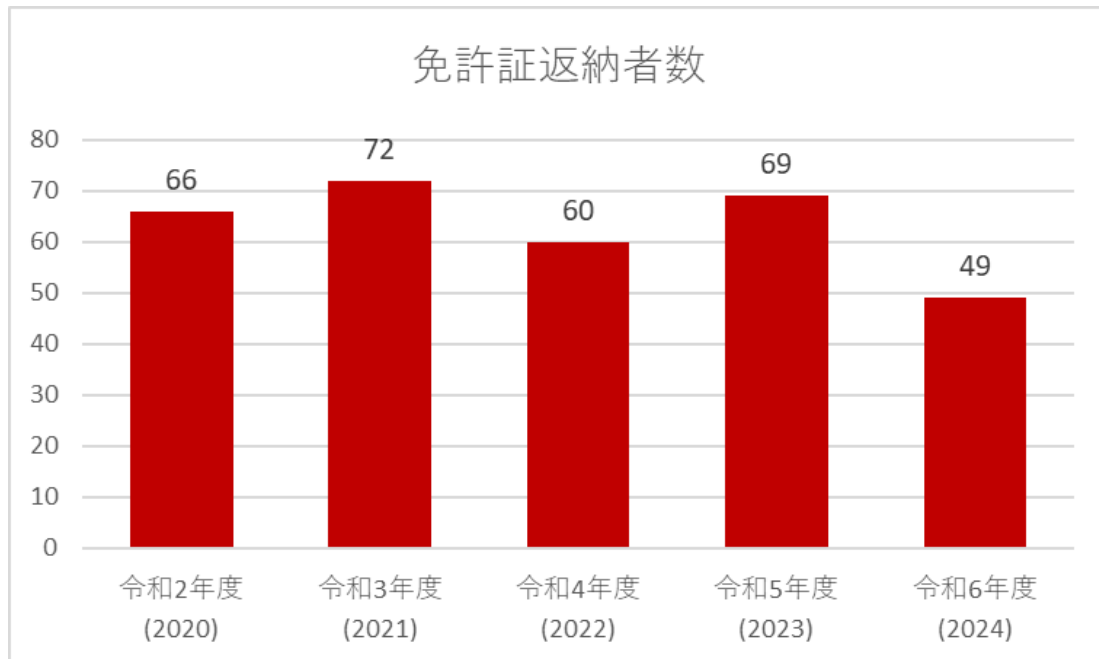


図7-1 上三川町運転免許証自主返納奨励事業申請数

運転免許の申請取消（自主返納）件数と運転経歴証明書交付件数の推移

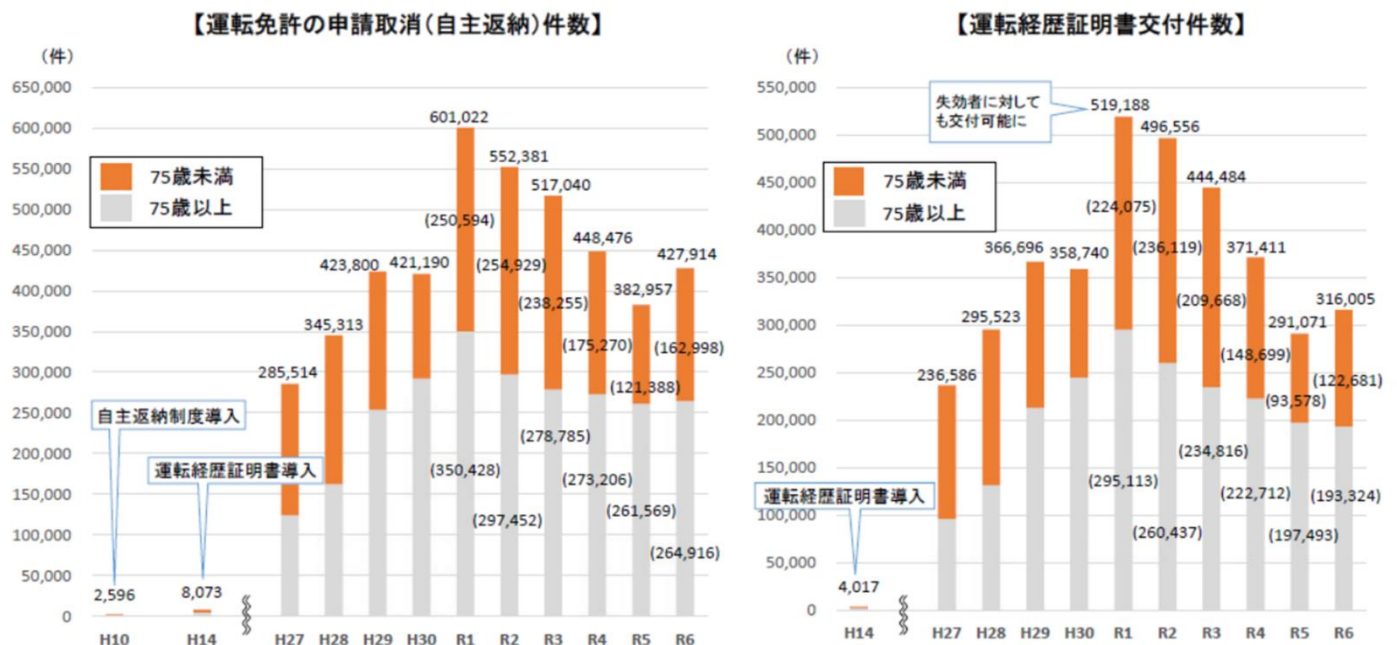


図7-2 運転免許証の自主返納数（全国）

出典「運転免許証の自主返納と運転経歴証明書について」（警察庁 HP）

3-2. 事業者からの意見

(1) 医療機関

通院者は、自分の運転か家族の運転による自家用車の通院が主となっています。デマンド交通による通院も増えてきていますが、帰宅便については、診療が終わる時間が分からないことから利用がしにくくなっています。バスによる通院については、通院者の自宅付近や施設付近や路線バスが運行しておらず利用しにくくなっています。

(2) 福祉施設

保育所、学童クラブは自家用車による利用が多くなっています。通所型の障がい者施設では、自家用車や自転車に加え、デマンド交通、施設所有のバスによる送迎を利用しています。

また、保育所では時間帯によって送迎が集中し、朝の送迎を早くできないか等の声が上がっています。また、保護者が送迎後出勤するため交通機関を利用することは少なくなっています。

(3) 工場等

従業員の通勤について、鉄道駅からバスによる送迎を行う事業所もありますが、多くの事業所では自家用車による通勤が主となっています。また、来訪者は鉄道駅からタクシーを利用することが多くなっています。

路線バスが事業所付近を運行しておらず、運行本数も少ないことから利用ができない状況となっています。

4 地域公共交通の課題

4-1. 町民生活を支える効率的かつ持続可能な交通手段の確保

町民が通院、買い物、行政手続き等、日常生活の利便性を確保するためには、既存の交通手段を維持強化する必要があります。しかし、少子高齢化や利用者減少に伴い、地域公共交通の運行コストの増加が見込まれることから、利便性を確保しつつ持続可能な交通サービスを維持するために、利用実態に応じたサービスの最適化を検討する必要があります。

4-2. 高齢者ニーズを踏まえた地域公共交通の見直し

2025年には団塊の世代が75歳以上になるなど、高齢者の免許返納の増加が見込まれます。高齢者が免許証を返納した後も安心して移動ができるよう、段差の少ない車両や多様な予約方法など、高齢者が利用しやすい交通手段の確保を検討する必要があります。

4-3. 地域公共交通に対する関心と地域を挙げた取組の確保

地域公共交通は利用者だけでなく地域全体で支えるべき資源ですが、利用者が限定的で関心が広がっていません。町民への周知・啓発や利用促進キャンペーン等、地域を挙げた取組を検討する必要があります。

4-4. 公共交通サービスのデジタル化

利用者の利便性向上のため、キャッシュレス決済やリアルタイム運行情報の提供、乗換案内との連携、利用者向けアプリのほか、複数交通手段を一括で検索・予約・決済できる MaaS の研究など、幅広いデジタルサービスの導入について検討する必要があります。

5 上三川町地域公共交通計画の基本方針

5-1. 基本方針

本町の公共交通の現状や高齢化社会の進行などの課題、上三川町総合計画を踏まえ、本町の目指すべき公共交通ネットワークの姿として基本方針を掲げます。

【基本方針】

～共に創り未来へつなぐ、持続可能な地域公共交通で輝く上三川へ～

5-2. 公共交通の区分

公共交通の区分と主な機能、対応する輸送資源を整理します。

区分	主な機能	輸送資源
地域間交通	町外との連絡・広域アクセス	鉄道（JR 石橋駅） 路線バス（石橋～真岡線、駒生～上三川線他） かみたん号（町外 9 施設）
地域内幹線交通	町内主要拠点の連絡	路線バス（石橋～真岡線、駒生～上三川線他）
地域内支線交通	住宅地等から各種施設への連絡 住宅地等から幹線交通への連絡補完	かみたん号（デマンド区間）
個別対応交通	公共交通利用困難者・特定目的	一般タクシー 福祉タクシー レンタカー イベント用シャトルバス 新たな交通サービス など

6 計画目標と評価指標

6-1. 計画目標

基本方針を踏まえ、3つの計画目標を掲げます。

計画目標1 生活利便性の維持・向上

計画目標2 地域理解と協力の促進

計画目標3 デジタル技術・新サービスの導入促進

6-2. 評価指標

計画目標の達成状況を評価するための指標を設定します。

計画目標1 生活利便性の維持・向上

数値 目標	項 目	現状値 (2025)	最終目標値 (2030)
	デマンド交通「かみたん号」の利用者数	16,152 人	16,500 人
①	◆目標の設定理由 高齢者等の移動手段の確保や、町内の地域間での公共交通サービスの平準化による公共交通空白地の解消を図るため導入したデマンド交通「かみたん号」の利用者数を指標とすることにより、生活利便性の指標として把握ができるため		
数値 目標	項 目	現状値 (2025)	最終目標値 (2030)
	運転免許証自主返納奨励事業申請数	4 9 件	6 0 件
②	◆目標の設定理由 安心して利用できる公共交通環境が整うことにより、運転免許を返納しても生活ができる安心なまちとして、運転免許証自主返納奨励事業の申請数の増加につながるため		

計画目標2 地域理解と協力の促進

数値 目標	項 目	現状値 (2025)	最終目標値 (2030)
	町民の鉄道・バス・タクシー・デマンド交通利用率	7. 3 %	7. 5 %
③	◆目標の設定理由 鉄道やバス、タクシー、デマンド交通等の公共交通の利用率を指標とすることで、地域公共交通の利用促進策の効果や住民の公共交通に対する理解度の把握ができるため		

計画目標 3 デジタル技術・新サービスの導入促進

	項 目	現状値 (2025)	最終目標値 (2030)
数値 目標	インターネットを利用した デマンド交通予約件数	1, 8 1 5 件	1, 9 0 0 件
④	◆目標の設定理由 デマンド交通「かみたん号」のインターネットを利用した予約件数を指標とすることにより、利用者の利便性向上の指標として把握ができるため		

7 目標達成に向けた施策

7-1. 計画事業

本計画の目標を達成するため、計画事業を立案します。

計画事業 1	デマンド交通運行形態の検討				
事業概要	地域内公共交通であるデマンド交通「かみたん号」の運行について、運行業務委託契約の更新に併せ、費用対効果を考慮した上でより効果的な運行が出来るよう見直します。 ・ 運行時間や予約方法等の検討 ・ 効率的な運行方法の検討 ・ 土曜日運行実証実験の実施及び結果を踏まえた本格運行の可否の検討				
実施主体	上三川町の委託により運行を行う交通事業者				
関連目標	計画目標 1 生活利便性の維持・向上 計画目標 2 地域理解と協力の促進 計画目標 3 デジタル技術・新サービスの導入促進				
実施 スケジュール	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)
	土曜実証運行 実施・検証 見直し検討	土曜実証運行 検証 土曜本格運行 検討 見直し検討	次期契約締結 検証	検証	検証 見直し検討

計画事業 2	運転免許証自主返納奨励事業の拡充				
事業概要	高齢者の交通事故減少を目的として実施している運転免許証自主返納奨励事業について内容の検討を行い、免許の自主返納のさらなる促進を図ります。 ・ 免許返納に対するインセンティブの内容検討 ・ 免許返納に対するインセンティブ付与の実施				
実施主体	上三川町・公共交通事業者・警察				
関連目標	計画目標 1 生活利便性の維持・向上 計画目標 2 地域理解と協力の促進				
実施 スケジュール	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)
	継続 見直し	継続	継続	継続	継続

計画事業 3	上三川町近隣の公共交通MAPの作成及び更新				
事業概要	自家用車から公共交通への利用移行及びバスを利用したことがない町民や観光客の利用促進のため、公共交通の運行概要やバス停・時刻表などを公共交通MAPにまとめ、分かりやすい情報案内の提供を行います。公共交通MAPの作成・配布にあたっては事業者をはじめ、地域住民の協力も得ながら、継続的な宣伝・PRによって公共交通の利用促進を図ります。 ・町内公共交通MAPの作成及びHPへの公開 ・スマートフォンにも対応した情報の公開				
実施主体	上三川町・鉄道事業者・バス事業者・タクシー事業者・デマンド交通事業者 地域住民				
関連目標	計画目標 1 生活利便性の維持・向上 計画目標 2 交通弱者に配慮したサービスの充実 計画目標 3 デジタル技術・新サービスの導入促進				
実施 スケジュール	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)
	作成 配布	継続	継続 更新	継続	継続 更新

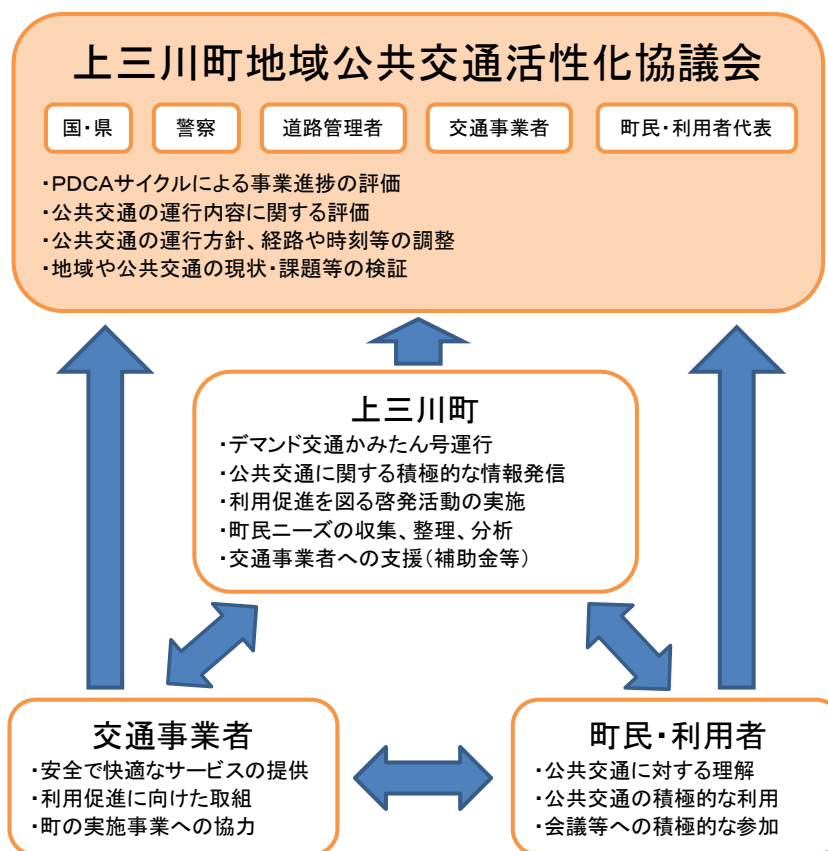
計画事業 4	公共交通の利用促進策の検討				
事業概要	地域公共交通の利用促進を図るため、公共交通情報の周知、その他の利用促進策を検討します。 ・地域公共交通の周知啓発 ・公共交通の利用促進策の検討				
実施主体	上三川町・公共交通事業者・地域住民				
関連目標	計画目標 1 生活利便性の維持・向上 計画目標 2 地域理解と協力の促進				
実施 スケジュール	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)
	検討	実施	継続	継続	継続

計画事業 5	デジタル技術を活用した新サービスの再検討				
事業概要	デマンド交通「かみたん号」の利便性向上策として、デジタル技術を活用したサービスの導入を検討します。また、公共交通の連携等に活用できる方策について調査研究を行います。 ・キャッシュレス決済機能の検討 ・リアルタイム運行情報提供サービスの検討 ・利用者向けスマホアプリや MaaS プラットフォームを活用した複数交通手段の一括検索・予約・決済システム等の研究				
実施主体	上三川町・公共交通事業者・システム開発事業者				
関連目標	計画目標 1 生活利便性の維持・向上 計画目標 3 デジタル技術・新サービスの導入促進				
実施 スケジュール	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)
	検討 調査研究	調整 調査研究	実施 調査研究	継続 調査研究	継続 調査研究

8 計画の推進

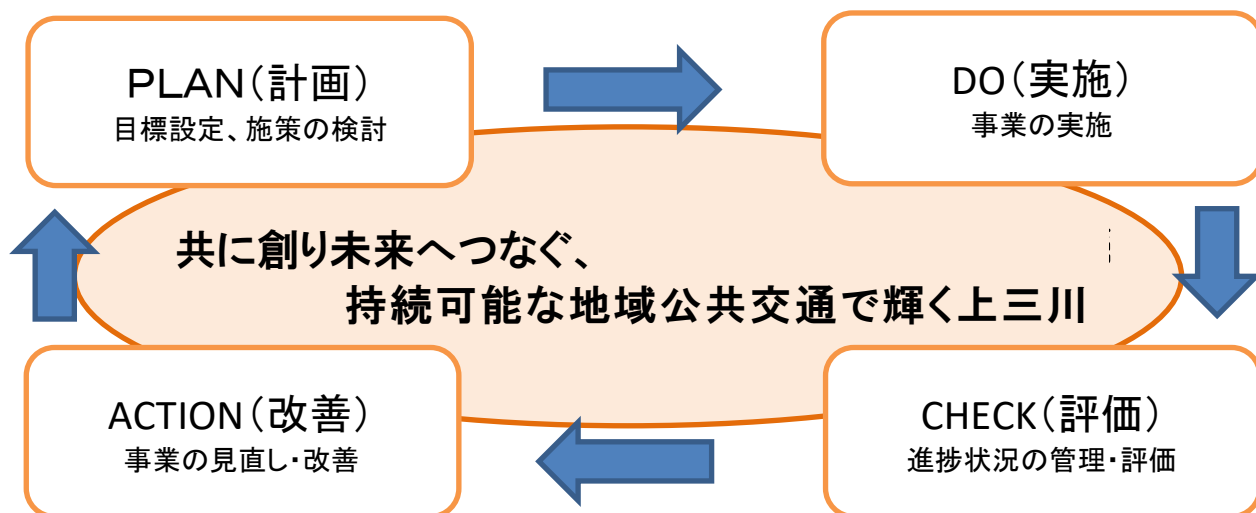
8-1. 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、国や県、町民、交通事業者など多くの関係機関との協力が必要であるため、役割分担を整理し、事業を実施します。



8-2. 計画の達成状況の評価

計画の達成状況については上三川町地域公共交通活性化協議会において施策の実施状況を毎年度整理し、実施の有無及びその要因を評価するとともに、計画の目標（数値目標）の達成状況の評価し、その要因を分析し、必要に応じて事業実施内容の見直し・改善を検討します。



上三川町地域公共交通 アンケート調査ご協力のお願い

町民の皆様には、日頃から町政に対しご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、上三川町ではよりよい公共交通を整備していくため、皆様のご意見をお聞かせいただきたく、アンケート調査を実施します。

今回は、15歳以上の町内居住者の中から1,500人を抽出し、アンケート調査票を送付させていただきました。（例年実施しているデマンド交通アンケートから連続で調査対象となった方もおられると思いますが、ご容赦ください。）

お忙しいところ恐縮ですが、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートはすべて統計的に処理いたしますので、お答えいただいたことで、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

令和7年2月

上三川町長 星 野 光 利

記入上の注意

1. 今回お送りした封筒のあて名に記載したご本人がお答えください。
2. 回答は、（1つに○印）、と指定されていますので、お間違えのないよう、お気をつけください。
○印は、番号を囲むように濃くつけてください。（例 ①.）
3. ご記入いただいた調査票は3月7日（金）までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。
差出人は無記名で結構です。
4. この調査票についてのお問い合わせは、下記をお願いします。

上三川町役場 地域生活課

上三川町しらさぎ一丁目1番地

生活係

電話 0285 (56) 9129

FAX 0285 (56) 6868

E-mail seikatsu01@town.kaminokawa.lg.jp

問1. あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。

あなたの性別	1. 男 2. 女
あなたの年齢	1. 15～17歳 2. 18～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～64歳 6. 65～74歳 7. 75歳以上
居住地区 (お住まいの地域)	1. 本郷小地区 2. 本郷北小地区 3. 明治小地区 4. 明治南小地区 5. 北小地区 6. 上三川小地区 7. 坂上小地区
職業	1. 会社員・公務員 2. 自営業 3. 主婦・主夫 4. 学生 5. パート・アルバイト 6. 無職 7. その他
自動車等免許 の有無	1. 自動車免許あり 2. 原付・二輪のみ免許あり 3. 自動車と原付・二輪の免許両方あり 4. 免許なし
自動車等(自動車、 原付、二輪)の所有	1. 自分専用の自動車等がある 2. いつでも使える家族共用の自動車等がある 3. 時々使える家族共用の自動車等がある 4. 持っていない

問2. 日常に関する外出についてお尋ねします。

あなたの普段の外出のうち、月に1～2日以上する移動について、頻度の多い順番に3つお答えください。(普段の移動とは、通勤・通学での自宅から勤務先への移動や、買物・通院・趣味などでの外出です。)

問2-1. 1番目の目的地

(1) 外出する目的(1つに○) 1. 通勤・通学 2. 通院 3. 買い物 4. 飲食 5. 趣味・娯楽 6. 業務 7. その他()
(2) 外出先 1. 町内 大字名() 2. 町外 市区町名()
(3) 外出頻度(1つに○) 1. 週に5日以上 2. 週3～4日 3. 週1～2日 4. 月1～2日
(4) 行き・帰りの時間帯 1. 行き(午前・午後 時ごろ自宅を出発) 2. (午前・午後 時ごろ自宅に到着)
(5) 利用した交通手段(いくつでも) 1. 自分で運転する車 2. 家族等が運転する車 3. デマンド交通 4. タクシー 5. 路線バス 6. 鉄道 7. バイク・原付 8. 自転車 9. 徒歩 10. その他()

※問2-2. 2番目の目的地、問2-3. 3番目の目的地は次項へお進みください

問2-2. 2番目の目的地

(1) 外出する目的 (1つに○)	
1. 通勤・通学	2. 通院 3. 買い物 4. 飲食 5. 趣味・娯楽 6. 業務
7. その他 ()	
(2) 外出先	
1. 町内 大字名 ()	2. 町外 市区町名 ()
(3) 外出頻度 (1つに○)	
1. 週に5日以上 2. 週3~4日 3. 週1~2日 4. 月1~2日	
(4) 行き・帰りの時間帯	
1. 行き (午前・午後 時ごろ自宅を出発)	2. (午前・午後 時ごろ自宅に到着)
(5) 利用した交通手段 (いくつでも)	
1. 自分で運転する車 2. 家族等が運転する車 3. デマンド交通 4. タクシー	
5. 路線バス 6. 鉄道 7. バイク・原付 8. 自転車 9. 徒歩	
10. その他 ()	

問2-3. 3番目の目的地

(1) 外出する目的 (1つに○)	
1. 通勤・通学	2. 通院 3. 買い物 4. 飲食 5. 趣味・娯楽 6. 業務
7. その他 ()	
(2) 外出先	
1. 町内 大字名 ()	2. 町外 市区町名 ()
(3) 外出頻度 (1つに○)	
1. 週に5日以上 2. 週3~4日 3. 週1~2日 4. 月1~2日	
(4) 行き・帰りの時間帯	
1. 行き (午前・午後 時ごろ自宅を出発)	2. (午前・午後 時ごろ自宅に到着)
(5) 利用した交通手段 (いくつでも)	
1. 自分で運転する車 2. 家族等が運転する車 3. デマンド交通 4. タクシー	
5. 路線バス 6. 鉄道 7. バイク・原付 8. 自転車 9. 徒歩	
10. その他 ()	

問3. 鉄道の利用状況についてお尋ねします。

問3-1. 「鉄道」を利用されますか? (1つに○印)

1. よく利用する 2. 時々利用する 3. ほとんど利用しない 4. まったく利用しない
--

「3. ほとんど利用しない」、「4. まったく利用しない」とお答えになった方は、利用していない理由を以下の中からお選びください。(最大3つまで○印)

1. 自家用車(原付・二輪を含む)での移動のほうが便利 2. 鉄道の本数が少ないから
3. 自宅から駅までの距離が遠いから 4. 鉄道の運賃が高いから 5. 利用する用事がないから
6. 自宅から駅までバスなどが運行していないから 7. その他 ()

※問3-2から問3-4は「1. よく利用する」、「2. 時々利用する」と回答されている方にお聞きします。

問3-2. 鉄道にお乗りになる駅で、最もよく使うのはどの駅ですか？（1つに○印）

1. 石橋駅 2. 自治医大駅 3. 雀宮駅 4. その他（ ）駅

問3-3. 自宅から最寄りの駅までの所要時間はどのくらいですか？（1つに○印）

1. 5分以内 2. 5～10分 3. 10分～15分 4. 15～30分 5. 30分以上

問3-4. 鉄道を利用する理由をお答えください。（最大3つまで○印）

1. 自宅や目的地が駅に近い 2. 時間が正確で早い 3. 運行本数が多い
4. 他に交通手段がない（車、免許等がない） 5. 車より経済的 6. 環境にやさしい
7. 健康によい（徒歩・自転車を利用するため） 8. その他（ ）

問4. 民間の路線バスの利用状況についてお尋ねします。

問4-1. 「民間の路線バス」を利用されますか？（1つに○印）

1. よく利用する 2. 時々利用する 3. ほとんど利用しない 4. まったく利用しない

「3. ほとんど利用しない」、「4. まったく利用しない」とお答えになった方は、利用していない理由を以下の中からお選びください。（最大3つまで○印）

1. 自家用車（原付・二輪を含む）での移動のほうが便利 2. バスが通っていない
3. バス停が遠い 4. 目的地が異なる 5. 運行本数が少ない 6. 始発の時間が遅い
7. 最終バスの時間が早い 8. 時間が不正確 9. 料金が高い
10. 他の交通機関への乗り継ぎが悪い 11. その他（ ）

※問4-2から問4-3は「1. よく利用する」、「2. 時々利用する」と回答されている方にお聞きします。

問4-2. 最もよく利用する停留所をお答えください。

1. 乗車停留所（自宅近く）（ ）停留所 記入例：（ 願成寺 ）停留所
2. 降車停留所（ ）停留所 記入例：（ 宇都宮駅 ）停留所

問4-3. 「民間の路線バス」を利用する理由を答えてください。（最大3つまで○印）

1. 自宅や目的地がバス停に近い 2. 時間が正確で早い 3. 運行本数が多い
4. 他に交通手段がない（車、免許等がない） 5. 車より経済的 6. 環境にやさしい
7. 健康によい（徒歩・自転車を利用するため） 8. その他（ ）

問5. デマンド交通かみたん号の利用状況についてお尋ねします。

問5-1. 「かみたん号」を利用されますか？（1つに○印）

1. よく利用する 2. 時々利用する
3. ほとんど利用しない 4. 登録したが利用していない 5. 登録していない

（次頁（右上）の設問につづく）

「3. ほとんど利用しない」、「4. 登録したが利用していない」、「5. 登録していない」とお答えになった方は、利用していない理由を以下の中からお選びください。（最大3つまで○印）

1. 自家用車（原付・二輪を含む）での移動のほうが便利
2. 予約しないと利用できないので面倒
3. 利用方法やルールが分かりづらい
4. 他人と相乗りすることに抵抗を感じるから
5. 料金が安いから
6. 行きたい目的地まで運行していないから（目的地_____）
7. 乗りたい時間帯に運行していないから（時間帯_____）
8. 乗合方式のため、迎えに来る時間や目的地に到着する時間をぴたり指定できないから
9. かみたん号を知らない
10. その他（_____）

※問5-2から問5-3は「1. よく利用する」、「2. 時々利用する」と回答されている方にお聞きします。

問5-2. かみたん号をよく利用する時間・目的地をお答えください。

（1）乗車場所 1. 自宅 2. 病院 3. 店 4. 塾・習い事 5. その他（_____）

（2）降車場所 1. 自宅 2. 病院 3. 店 4. 塾・習い事 5. その他（_____）

問5-3. かみたん号を利用した感想をお答えください。

	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満足	不満足
運行日 （平日のみ 年末年始除く）	5	4	3	2	1
運行時間帯 （午前8時～午後6時）	5	4	3	2	1
運行台数 （3台運行）	5	4	3	2	1
運賃 （大人町内300円、町外450円）	5	4	3	2	1
運行区域 （町内全域及び町外9施設）	5	4	3	2	1
電話オペレータの対応	5	4	3	2	1
運転手の対応	5	4	3	2	1
乗車中の安全性	5	4	3	2	1

問6 上三川町の公共交通に対する満足度や、将来の生活についてお尋ねします。

問6-1. 下記に関して、あなた自身の満足度をお答えください。（それぞれ1つに○印）

※該当しない項目は回答不要です。

	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満足	不満足
通勤・通学の移動のしやすさ	5	4	3	2	1
買い物への移動のしやすさ	5	4	3	2	1
医療機関への移動のしやすさ	5	4	3	2	1
総合的な生活のしやすさ	5	4	3	2	1

問6-2. あなたの現在の外出状況および将来の不安についてお答えください。(1つに○印)
 ※将来は、10年後、現在の住まいに生活していると仮定し、その時の家族構成、家族年齢等を踏まえお答えください。

〈現在の外出状況〉

1. ひとりで十分できる 2. ひとりでなんとかできる 3. 誰かの助けがあればできる 4. できない

〈将来(10年後)の不安〉

1. 不安がない 2. 少し不安がある(理由: _____)

3. 不安がある(理由: _____)

問6-3. 鉄道に対する満足度について、満足している項目・不満な項目について、以下の選択肢群からお選びください。(最大3つまで)

満足している項目(3つまで)			
不満な項目(3つまで)			

〈選択肢群〉

1. 目的地までの行きやすさ 2. 目的地までの所要時間 3. 鉄道の運行本数 4. 鉄道の始発時刻
 5. 鉄道の終発時刻 6. 鉄道の運賃 7. 鉄道の環境(ベンチ・屋根等)
 8. 鉄道の運行経路や行先 9. 鉄道の運行時間の正確さ 10. 鉄道駅の施設(バリアフリー対応等)
 11. 鉄道とバスの乗り継ぎ 12. 鉄道の運行情報のわかりやすさ

問6-4. 町内運行中の路線バスに対する満足度について、満足している項目・不満な項目について、以下の選択肢群からお選びください。(最大3つまで)

満足している項目(3つまで)			
不満な項目(3つまで)			

〈選択肢群〉

1. 自宅とバス停の距離 2. 目的地とバス停の距離 3. バスの運行本数 4. バスの始発時刻
 5. バスの終発時刻 6. バスの運賃 7. バス停の環境(ベンチ・屋根等)
 8. バスの運行経路や行先 9. バスの運行時間の正確さ(定時性) 10. バスへの乗降しやすさ(段差)
 11. バスと鉄道の乗り継ぎ 12. バスの運行情報のわかりやすさ

問6-5. あなたにとってデマンド交通「かみたん号」、バス交通はどのような存在ですか。最もあてはまると思う番号をお選びください。(それぞれ1つ)

デマンド交通「かみたん号」		バス交通	
---------------	--	------	--

〈選択肢群〉

1. 日常生活に欠かせない移動手段である 2. 移動の目的や目的地によって、たまに利用することがある
 3. 現在は必要としていないが、将来クルマを手放した際には必要となる
 4. 現在は必要としておらず、今後必要になるとは思わない
 5. その他(_____)

問6-6. 今後、上三川町の公共交通をよりよくしていくためには、何が必要だと思いますか？
あなたが考えに当てはまるものをお選びください。（最大3つまで○印）

- | | | |
|------------------------------|---------------|--------------------|
| 1. バスの運行本数を増やす | 2. バス路線を増やす | 3. デマンド交通の運行時間を増やす |
| 4. デマンド交通の台数を増やす | 5. バリアフリーを進める | 6. 駅への接続性を良くする |
| 7. 上三川町の近隣市町と連携し、広域公共交通を促進する | | |
| 8. 高齢者や障がい者の割引率を向上させる | | |
| 9. わかりやすい公共交通の情報を提供する | | |
| 10. その他（ ） | | |

問7. 公共交通の今後のあり方についてお尋ねします。

【公共交通の現状】

町の公共交通は、民間の路線バス・タクシーの他、デマンド交通「かみたん号」等が運行していますが、今後、人口減少・少子高齢化などにより利用者が減少すると、減便や廃止などの可能性があります。

現在、町内を運行中の路線バスは赤字路線もあり、他の黒字路線の収益により維持している状況で、令和5年度の公共交通全体に対する町の費用負担額は、年間約1,850万円（デマンド交通運行経費（運賃収入等除く）約1,480万円、路線バスに対する運行維持費約370万円）でした。

問7-1. 今後の公共交通に対する財政負担について、あてはまるものをお選びください。
（1つに○印）

- | | | |
|----------------|---------------------|----------------|
| 1. 財政負担を減らすべきだ | 2. 財政負担を現状程度に維持すべきだ | 3. 財政負担を増やすべきだ |
|----------------|---------------------|----------------|

問7-2. 公共交通を今後も維持するために、ご自身で公共交通を利用しようと思いますか。
（1つに○印）

- | | | | |
|-----------|-----------|--------------|-------------|
| 1. 強くそう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない |
|-----------|-----------|--------------|-------------|

問8 上三川町公共交通についてご意見、ご要望等ございましたらご自由にお書きください。
（自由記述）

〈自由意見欄〉

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は **3月7日（金）** までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。